

Krönungs-Messe C-dur K. 317

ソプラノ 藤本 いく代 テノール 岩井 健 司  
アルト 池田 ひろみ バス 谷 篤

合唱 東京芸術大学音楽学部声楽科学生  
管弦楽 東京芸術大学音楽学部管弦楽研究部

GEIDAI PHILHARMONIA

指揮 佐藤 功太郎 KÔTARO SATO



嶺 貞子 木村宏子 鈴木寛一 多田羅迪夫

第223回 (学生オーケストラ)

1986年12月13日 (土)  
五反田簡易保険ホール  
開演 ● 六時三〇分

プログラム

●交響曲 第5番 ニ短調 作品47……………ショスタコーヴィチ  
*Symphonie Nr. 5 d-moll op. 47* Shostakovich

指揮 遠藤雅古  
*Masahisa Endo*

●サロメの踊り ……………R. シェトラウス  
*Salomé's Tanz* R. Strauss

指揮 松尾葉子  
*Yoko Matsuo*

— 休 憩 —

●交響曲 第5番 嬰ハ短調……………マーラー  
*Symphonie Nr. 5 cis-moll* Mahler

指揮 ヴィクター・フェルドブリル  
*Victor Feldbrill*

\* Greetings Victor Feldbrill



S. チェリビダックによる学生オーケストラ公開練習



松尾葉子

第2節 吹奏楽定期演奏会

わが国の吹奏楽は、明治維新以来の近代化政策にともない、軍楽隊を中心として発達してきた。明治30年代に始まった東京音楽学校のオーケ

ストラも、管楽器のほとんどは、海軍軍楽隊の協力を得て編成されていたのである。このような状態は、実際には音楽学部となってからもしばらく続いた。

本学においては、昭和10年に入学した生徒が、翌昭和11年に予科を修了して本科器楽部に進み、そのうち3名がそれぞれフルート、オーボエ、トロンボーンを専攻した。これが管楽器専攻の1回生となった。その後年々、管楽器を希望する入学者は増え、専攻楽器の種類も徐々に多様化していった。この頃から小編成ながら吹奏楽が始まり、慰問演奏なども行っている。しかし、戦況が悪化するにつれ、音楽学校の男子生徒も次々に軍隊に送りこまれていく事態を迎え、吹奏楽を編成することもままならなくなった。やがて終戦を迎え、教官や生徒が1人また1人と復帰してくると、音楽学校にも吹奏楽の響きが蘇ってきた。

しかしその一方で、終戦と同時に軍楽隊が廃止されたため、吹奏楽は、陸海軍軍楽隊というかつての活動の中心舞台を失うことにもなった。吹奏楽は、新時代にふさわしいありかたを模索する段階に入ったのである。

音楽学部の発足にともない、学内では新たに管楽器の専門家を育てようという気運が盛りあがった。東京音楽学校時代には、管楽器の実技指導にあっていた教官の多くが、ピアノや作曲や弦楽器の専門家であった。生徒の方も、かつてはピアノや弦楽器の専攻者が副科として管楽器を学ぶことが多かった。これを改めて、管楽器の担当教官を充実させ、専攻学生を受け入れる方針がとられた。しかしそれでも、今日普通に考えられているような、専門家による専門実技のレッスンが完全に行きわたるまでにはかなりの年月を要した。教官・学生ともども、時には手さぐり状態ながら、真剣かつおおらかに吹奏楽に情熱を傾けていたのである。

一方、音楽学部が発足して1年半ほど経過した昭和25年12月頃、学内に東京音楽研究所という機関が構想され、その一部門として吹奏楽研究部が置かれた。といっても、これは組織として認可されるには至らず、

結果的には全く非公式な、有志の集まりにとどまった。しかし、吹奏楽研究部は、当時トロンボーンの助教授であった山本正人（昭和45年～59年3月ソルフェージュ教授、昭和61年12月逝去）を中心に、若手教官らが一致協力して、戦争で衰退した吹奏楽を復興し、さらには軍楽のイメージを脱して芸術的な演奏を目指したのである。当時は、学生だけでは人数の点でも演奏技術の点でも、とてもアンサンブルを編成することが不可能であったため、警察、消防、保安隊などの音楽隊の助けを借り、さらに卒業生や教官まで加わって、吹奏楽研究部の練習が始められた。

音楽学部としての表立った動きはなかったにもかかわらず、熱心な練習と関係者の懸命な働きかけが実って、ついに昭和26年10月17日、「朝日新聞社文化事業団」の主催で演奏会が開かれる運びとなった。演奏会は、その時のメンバーの練習成果を発表したものに過ぎず、長期的な展望に立ったものではなかった。しかしこれをきっかけに、やがて演奏会を定期的に続け、レベルの高いプログラムにしていこうという声が高まってきた。そして結果的に先の演奏会が、吹奏楽定期の第1回と数えられることとなったのである。

ところで、プログラムに記載されている主催者と出演者の名称を順を追って見ると、特に初めの10年間は、主催者の名称が一定していないことに気付く。これはちょうど、戦後の吹奏楽熱が全国的な盛り上がりを見せた時期にあたり、吹奏楽研究部は、定期演奏会のほか、放送や出張演奏なども積極的に行って、アンサンブルの楽しさと美しい和音を豊かな響きにのせて各地に送り届けた。ようやくその実績が認められて、正式に音楽学部の主催となったのは第20回の定期演奏会からである。それまでのほぼ10年間、経済的な危機に直面し、学内での位置付けをめぐる不安定な状態の中で定期演奏会が次第に定着していったことは、関係者の熱意と信念の強さを語っているといえよう。また、吹奏楽研究部という名称についても、演奏団体として公認されなかったため、その後、管打研究部、管打合奏研究部と変わり、さらに、東京芸術大学音楽学部管打楽器専攻学生となって現在に至っている。

また、出演者は、回を重ねるにつれて学生が主体となり、やがて学生のみとなる。一時期は100人を超える大編成となり、本学の一つの名物であった。昭和51年に吹奏楽研究部が管打合奏研究部として再出発したのに伴い、定期演奏会は管打合奏の授業の発表の場となった。この授業を必修で履修する2年生と3年生、それに選択で履修する4年生が出演し、時には教官も手伝う。通常、4、50人の編成であり、これは原則的に各パート1名というウィンド・アンサンブルの形式にのっとったものである。

演奏曲目を振り返ってみると、当初は軍楽隊の名残をとどめたものが多かったが、次第にレパートリーを広げ、難曲に挑戦し、その時々の編成に合わせて新たに編曲して発表するなど、積極的な姿勢が貫かれている。また吹奏楽定期演奏会を軌道にのせ、発展させるうえで、中心的役割を果たした山本が、プロの作曲家に限らず、直接間接に知り合ったアマチュア作曲家の作品を発掘し、初演したことも忘れることはできない。そのような例をいくつか挙げておこう。阪急少年音楽隊副隊長であった小川原久雄の〈交響的第四章 雲への頌歌〉(第21回定期)、本学指揮科を卒業してまだ間もなかった森村寛治の〈吹奏楽のための即興曲〉(第22回定期)、会社社長で自らトランペット演奏を楽しみ、日本にジャズ奏法を紹介した堂本誉次の行進曲〈若いころ〉(第23回定期)、東京音楽学校でフルートを専攻した作曲家、川崎優の〈希望〉(第24回定期)、石桁真禮生(本学名誉教授)の〈打楽器群のための“級数的遠近法”〉(第25回定期)、選科作曲を卒業して本学事務局に勤務していた林和伸の行進曲〈ふるさとに栄光あれ〉(第28回定期)、浦田健次郎(現・本学作曲科教授)の〈トートロジー〉(第32回定期)などがそれである。

吹奏楽定期演奏会は創立100周年記念演奏をもって53回を数えたが、なかでも意欲的なプログラムとして特筆に値するものとして、第41回のシェーンベルクの〈主題と変奏〉やストラヴィンスキーの〈管楽器のシンフォニーズ〉、F. フェネル指揮による第51回定期などがあげられよう。

なお、吹奏楽のプログラムの詳細や、今日までの事情に関して、定期演奏会発足当初からの重要なスタッフであった大石清音楽部元教授(テューバ、平成3年3月退官)には、資料の提供からプログラムの内容に至るまで、惜しみないご協力と多大なご教示を賜った。ここに深く感謝申し上げたい。

## 第1回

2. p. m. 17th Oct. 1951. at the Hibiya Public Hall

### PROGRAM

主催 朝日新聞社文化事業団  
演奏 東京芸術大学音楽学部附属吹奏楽部

#### I

- |                                   |                   |
|-----------------------------------|-------------------|
| “Light Cavalry” Overture          | F. Suppé          |
| 序曲 “軽騎兵”                          | スッペ               |
| “Gold and Silver” Waltz           | F. Lehár          |
| 円舞曲 “金と銀”                         | レハール              |
| “Star Dust”                       | H. Carmickael     |
| スターダスト                            | カーマイケル            |
| “March Characteristic of America” | arr. by K. Kawabe |
| 行進曲 アメリカの描寫                       | 河邊編曲              |

#### II

- |  |                 |
|--|-----------------|
| “Dance of the Hour” from opera “La Gioconda” | A. Ponchielli   |
| バレエ “時の踊り” 歌劇 “ラ・ジョコンダ”より                    | ボンキエルリ          |
| “The Nutcracker Suite” Ballet Music op. 71a  | P. Tschaikowsky |
| バレエ組曲 “胡桃割人形”より                              | チャイコフスキー        |

## “Unfinished Symphony”

未完成交響曲

F. Schubert

シューベルト

## III

## “Athletic Festival March” op. 69 No. 1

体育祭行進曲

S. Prokofieff

プロコフィエフ

## “Hungarian Dance” No. 5, No. 6

ハンガリヤ舞曲 第五番 第六番

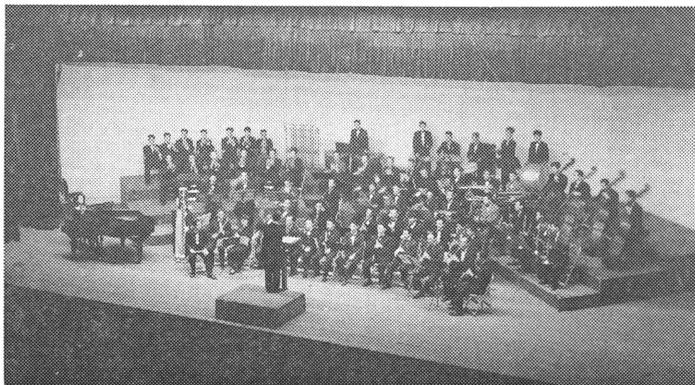
J. Brahms

ブラームス

## “The Glass Slipper” Musical Story from “Sinderella” P. Yoder

音楽物語 “ガラスの靴” “シンデレラ姫” より

ヨーダー



昭和26年10月17日，第1回吹奏楽演奏会，日比谷公会堂（写真提供 大石清）

## 第一回吹奏楽演奏会に當り

昨年出立した我が芸術大学吹奏楽研究部の発表が此の度行はれる事となつた。この音楽会は我が国に於ける最初の意義ある催しと考へられる。日本のオーケストラは今日に於ては非常に隆盛になつて來たが吹奏楽は古く

からあるにかかわらずあまり立派なものが出来てゐない。私はフランスに留学して居た頃パリのガルド・レパブリカンの吹奏楽団の演奏を屢々聞いて感心させられて、我が國の吹奏楽団の事を思ひ出してうらやましく思つた事があつた。この度の催しがきっかけとなつて我が國の吹奏楽が恐らく盛になるのではないかと思はれる。私は心からこの研究部の發展を祈つて止まない。

東京芸術大学音楽学部学部長 加藤成之  
東京芸術大学附属東京音楽研究所々長

東京音楽学校の吹奏楽団は、昭和十年頃より萩原英一先生指導のもとに、少数の人員により始められ、そのうち管楽器専攻の生徒も、本科、師範科の管楽器履修者も出来、年々人員を増し、昭和十八年頃より五十余名の編成が出来る様になり、慰問演奏等に活躍する様になりました。然し終戦と同時に人員も減り殆ど懐減の状態になり、筆者も管楽器奏者として非常に残念に思ひ、管楽器教官諸氏と話し合ひ、努力の結果、学部長初め諸先生方の御理解御盡力に依り、昭和二十四年十二月東京芸術大学音楽学部附属東京音楽研究所が設置され、此の研究所の中に吹奏楽部が生まれました。研究所の趣旨を先輩諸氏に話し、皆の賛同を得て練習を開始、二十五年三月からN・H・Kより毎月一回乃至二回放送する様になり、研究、発表と回を重ねるにつれ部員の融和も出来、技術も向上しつつあります。今後益々部員一体となり、フランスのギャルド吹奏楽団に匹敵する吹奏楽部を作り上げたいと思つてゐます。茲に第一回の演奏会を開くに當つて、御盡力下さいました諸氏に感謝します。

吹奏楽研究部長 山本正人

私共が子供の頃陸海軍々楽隊を始め各職場学校のプラスバンドが日比谷の音楽堂で種々演奏会を行つてゐましたものでした。そして機会を得て現在に至りあの頃を想ひ出し又あの様なふんいきを作つて音楽を楽しむ事が出来たらと今回の演奏会を開く事に致しました。管絃樂とは異つたよさを

持つ吹奏楽の演奏会は外国ではしばしば行はれてゐるものであります。佛國ではギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団、米國ではスーザバンド、ゴールドマンバンドと世界的に有名なバンドがあります。私共旧東京音楽学校卒業の諸先輩の御協力を得て彼の地のバンドの様な秀れた演奏を致し度いと昨年より種々の困難を排して今日に至つたのであります。今後も益々勉強してよりよいバンドとして皆様と共に音楽を楽しんで行き度いと思つてゐます。今回の演奏会開催に当り朝日新聞社の御援助に対し深く感謝致します。

東京芸大吹奏楽部 大石 清

終戦以來陸海軍々楽隊の消滅により吹奏楽器奏者の養成機関が無くなり管楽器奏者の將來は誠に憂ふべきものがあつた。この時にその養成をも含み、ともすればオーケストラ関係以外の吹奏楽器奏者は純音楽から離れ勝ちなのでそれにふれる機会を得させると云ふ意味に於てこの芸大附属吹奏楽団結成は誠に意義深いものがある。

將來上述の意味を持つと共に従來の陸海軍々楽隊無きあとの我が國樂界に於ける最も重要な団体の一つに發展してゆくことを信じて疑はない。

第一回演奏会を開くに当り各方面よりの御指導御鞭撻をお願い致し度ひと思ひます。

金子 登

## 第2回

27・6・26 (木) [指揮] 山本正人 日比谷[公会堂]

行進曲「旧友」	タイケ
円舞曲「エスパナ」	ワルドトイフェル
歌劇「ローエングリン」より第3幕への前奏曲	ワグナー
交響詩「フィンランディア」	シベリユウス
アメリカンパトロール	ミーチャム

喜歌劇「メリーウィドウ」抜粋曲	レハール
ハンガリア狂詩曲 第2番	リスト
セント ルイス ブルース マーチ	ハンディ
接続曲「海」	ラング
序曲「バグダットの太守」	ボァエルデュー
タンホイザー大行進曲	ワグナー

[「第20回吹奏楽定期演奏会」プログラムより作成。]

## 第3回

昭和27年12月15日(月) 日比谷公会堂  
東京芸術大学附属吹奏楽研究部

Symphonic Brass Band Member's of Tokyo University  
of Arts

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

Conductor ; Masato Yamamoto

指揮 山本正人

## PROGRAM

### Part I

#### 第一部

1. March "Under the Double Eagle" .....Wagner  
行進曲 "双頭の鷲の旗の下に" .....ワグナー
2. "Star Dust" .....Carmickael  
"スターダスト" .....カーマイケル

3. "Waltz" from the Ballet Suite "Sleeping Beauty"  
 ……………Tchaikowsky  
 "円舞曲" バレー組曲 "眠れる森の美女" より  
 チャイコフスキー
4. Selection "Die Fledermaus" ……………Strauss  
 抜粋曲 "蝙蝠" シュトラウス
5. "The Nutcracker Suite" ……………Tchaikowsky  
 バレー組曲 "胡桃割人形" より チャイコフスキー
6. March "With Sward and Lance"……………Starke  
 行進曲 "剣 と 槍" スターク

Part II  
 第 二 部

1. March "The Thunderer" ……………Sousa  
 行進曲 "雷 神" スーザ
2. Overture "Orpheus in the Unterwelt" ……Offenbach  
 序 曲 "天国と地獄" オッヘンパッハ
3. "Rumbaland"……………Crey  
 "ルムバランド" クレイ
4. "A Night at the Ballet" ……………Walter  
 "バレエの一夜" ワルター
5. March "The High School Cadets" ……………Sousa  
 行進曲 "士官候補生" スーザ

第 4 回

昭和28年 6 月 8 日 (月) 日比谷公会堂

Symphonic Brass Band Member's of Tokyo University  
 of Arts

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

Conductor ; Masato Yamamoto

指揮 山 本 正 人

PROGRAM

PART I

第 一 部

1. Overture 「Rosamunde」 ……………Schubert  
 序 曲「ロザムンデ」 シューベルト
2. Symphony No. 8 「Unfinished」……………Schubert  
 交響曲 第八番「未完成」 シューベルト
3. March 「Military」……………Schubert  
 行進曲「軍 隊」 シューベルト

PART II

第 二 部

1. Overture 「Alpine Holiday」 ……………Barnes  
 序 曲「アルプスの休日」 バーネス
2. Waltz 「Over the Waves」 ……………Rosas  
 円舞曲「波路を越えて」 ローザス
3. Selection 「La Traviata」 ……………Verdi  
 抜粋曲「椿 姫」 ヴェルディ
4. March 「Hongrois」 ……………Berlioz  
 行進曲「ラコッツイ」〔ハンガリー〕 ベルリオーズ  
 arr. M. Sugawara

歌劇「ファ[ウ]ストの劫罰」より 菅原明朗編曲

第5回

東京芸術大学吹奏楽研究部

昭和28年12月3日(木)午後6.30 日比谷公会堂

Symphonic Brass Band Member's of Tokyo University  
of Arts

Conductor ; Masato Yamamoto  
指揮 山本正人

PROGRAM

Part I  
第一部

1. Suite "Ballet Egyptien" Luigini  
組曲 "エジプト・バレエ" ルイジイニ
2. "Finale" from The New World Symphony Dvořák  
"新世界交響曲" より終楽章 ドボルザーク
3. Overture "Tannhäuser" Wagner  
序曲 "タンホイザー" ワグナー

Part II  
第二部

1. March "Washington Post" Sousa  
行進曲 "ワシントン・ポスト" スーザー

2. "Indian Love Call" from Operetta Friml  
"Rose Marie"  
"インデアンラブコール"  
喜歌劇 "ローズ・マリー" より フリムル
3. Waltz "Tales from the Vienna Wood" Strauss  
円舞曲 "ウィーンの森の物語" シュトラウス
4. Selection Opera "Carmen" Bizet  
抜粋曲 歌劇 "カルメン" ビゼー
5. March "Grand Coronation" Meyerbeer  
from Opera "Le Prophète"  
行進曲 "戴冠式" 歌劇 "予言者" より マイヤベール

第6回(萩原英一先生謝恩演奏会)

東京芸術大学吹奏楽研究部

昭和29年6月3日(木)午後6.30 日比谷公会堂

Symphonic Brass Band Member's of Tokyo University  
of Arts

Conductor ; Eiichi Hagiwara  
; Masato Yamamoto  
指揮 萩原英一(病氣のため欠席)  
山本正人

PROGRAM

Part I  
第一部

1. Die Meistersinger von Nürnberg Wagner

- 序曲 “マイスタージンガー”  
 2. L'Arlésienne Suite No. 2  
 “アルルの女” 第二組曲
- ワグナー  
Bizet  
ビゼー
- Part II  
第二部
1. March “Colonel Bogey”  
 行進曲 “ボゲイ大佐”
- Alford  
アルフォード
2. Theme and Variation “Long Long Ago”  
 arr. by M. Yamamoto  
 Trumpet Solo Fujio Nakayama  
 主題と変奏 “ロング・ロング・アゴー”  
 トランペット独奏 中山富士雄 編曲 山本正人
3. Waltz “Beautiful Danube”  
 円舞曲 “美しく碧きドナウ”
- Strauss  
シュトラウス
4. Selection Opera “AIDA”  
 抜粋曲 “アイーダ”
- Verdi  
ヴェルディ



萩原英一

山田 耕 笹 東京芸術大学音楽学部同声会長  
 一つの目標をみざしてひたむきな努力を捧げ得る人は幸である。萩原英

一君はその一人である。ピアノ科に学びながら、その頃ではむしろ軽く見られてたポザウネを手にしたこと、それは我々の仲間でも物好きな男としか見られなかったのに……。

私よりは一年おくれて伯林へ来た彼は、王立音楽院のピアノ科に入ると直ぐ、見事なツウク・ポザウネを手に入れて頻りに研究しはじめた。師事したのは王立オペラ座の第一ポザウニスト・パウル・ヴェシケ先生であった。そして歸朝して母校の教授となつてからも、上野楽団の一員として長管の伸縮に労苦の汗を流してゐたのだ。或は私の見方は過つてゐるかも知れないが、彼はポザウネ自体に魅惑されたのではなく、あの男性的な咆哮に快味を感じたからでもない。恐らく彼の目標は上野の楽団の完備を希ふ事にあつたのではなからうか。それ故にこそ、人のあまり手にしながらぬ楽器、しかもそれなくしては楽団の完備は望めない、あゝした楽器に身魂を投げ打つたのだ。と私は信じてゐる。その心が上野の楽団を完備させ、やがては上野吹奏楽団の誕生とまでなつたのだ。

それは建物の土台石となる。といふより、むしろ土台石の下に敷かれるバラスの役目を甘んじて買つて出た事になるのだ。派手な面の仕事には誰しも努力を惜しまない。が、かうした地味な面への仕事には避け勝ちのものなのに。

私は彼の仲間の一人として、彼のかうした地味な隠れた徳を讃へずにはゐられないのだ。そして彼のさうした精神がいつまでも母校の吹奏楽団に根づよく生きるよう切望する。

技なくして芸術は成り立たない。然し心の抜けた技ばかりでは徒らなる技の弄れとなるに過ぎないのだから……。

#### 外 山 国 彦

上野で管楽器を専攻したのは明治35年のクラリネットの中村忠雄氏と36年のホルネットの渡部康三氏の二人であつた。その頃学生の間で「学校のオーケストラは学校の者と卒業生でやる様にしたい」との声が高鳴りなつた、学生達の希望が聞かれて副科に管楽器をやる者が相当に多くなつたの

はこの頃からである。彼がトロンボーンを手にしたのは何時頃かは知らないが、副科として希望が容れられた一人だった。「トロンボーンを吹くと頭が早く……」と言ふ話もあったことではあり、彼も最初は気にして居た様だったが元來物事に熱中する彼は後では特別に気にもならなかつたらしく。今でもそれらしい話つ振りなどがある様に彼は学生時代には誰にもうなづける江戸つ子の学生だった。

その頃のオーケストラの中でトロンボーン等は特に物すごく威勢のいい音をして居た（これは今の人では想像の出来ない）のでそれを見聞した江戸つ子が、その華やかさ、男らしさに威勢のいい音色にゾッコン惚れ込んだのは言ふまでもない。彼が副科にトロンボーンをやつたのもこの辺にあるらしいといふ人もある。

彼は独逸に居た時もピアノと共にトロンボーンの勉強も忘れなかつたので帰つてからは優秀なトロンボーン奏者として大に楽壇に活躍したのみならず管楽器を学ぶ者の為め指導や助力をおしまなかつた。「上野で管楽器をやつた者で萩原先生の指導を受けない人はない」と言はれて居ることは彼が吹奏楽界の功労者であることを物語つて居ると思ふ。又彼の吹奏楽に対する熱情は吹奏楽のあるところ必ず彼の姿を見ることでも知られる。若い日の思ひ出に吹奏楽に指揮棒を持つと聞いて、江戸つ子学生を思ひ出しながら、いゝ演奏が聞かれると楽しみにして居る。

#### 加藤成之

東京芸術大学吹奏楽研究部の第六回演奏会を開く事となつた。特に今回は吹奏楽団のそだての親である萩原英一先生にも指揮をしていただく事となつたのは、思い出深くまた意義ある事である。

私がパリに居つた頃度々聞いたガルド・レパブリケ<sup>(7)</sup>の吹奏楽を聞いた感激は今でも忘れられない。七月十四日にパリの凱旋門を堂々と進行しつつ奏せられたラ・マルセイエーズを聞いた時につくづく我が国にもこんな吹奏楽団があつたらとうらやましく思つた事があつた。

我が研究所の吹奏楽団も各方面の助力もあつて一步一步前進していく事

は楽しい事である。なんとかしてヨーロッパ第一流の吹奏楽団に劣らぬものにしたいたいものである。

それについても世間一般に吹奏楽は管絃楽にくらべて芸術的に一段低いもの様に見ている人のあるのは大きな誤りである。吹奏楽には管絃楽には出されない多くの特徴がある。また管絃楽には無い味もある。

最後に萩原先生が此後も時々この吹奏楽団を指揮していただく事を御願ひしてをく。

#### 山口常光

思出 私がベルリン滞在中のこと、それは一九三二年の夏の或る夜のことです。私はドイツ国防省のヘルマン・シユミットと云ふ人（この人はホツホシユーレの軍楽長候補生の教官を兼ねてゐた）に伴はれて或るピーヤホールに行つて居りました。すると其処に四、五名の楽団人らしい人がトロンペットやトロンボーンのカースを提げて這入つて来ました、シユミットはよく知つてる人らしく、やーやーと挨拶してゐました。その一団は私達の傍のテーブルに席を取つて飲み初めました。私達はすぐ合流しましたが君は日本人か日本では喇叭吹きは飲むか？ などと話に花が咲きました。シユミットがこの人はトロンボーンの名手でホツホシユーレの教授だと中の一老紳士を紹介してくれました。私は今では其人の名を思い出しません、大変親しみ深い表情で私に云ふにずっと以前に私は一人の日本人にトロンボーンを教へたことがある。その人はピアノ弾きだが管楽器に特別の趣味を持ちトロンボーンも上手になつたが彼は今東京の音楽学校の教授になつてる筈だ、と言つた。私は萩原先生がドイツでトロンボーンを正式に教つたと云ふことを聞いていたので、それは萩原さんでせうと云つたら、さうださうだと懐しがつてゐました。その人は顔の大きいドイツ人らしい白毛まじりの部厚い八字ヒゲをはやした人でビールの方も相当いける様でした。私は帰つてからこの話を萩原先生に話したことがあるが、あの先生まだ健在か！ うー、昔から相当飲んだね！ と懐しさうでした。萩原先生は若い頃から管楽器に理解あり、よく研究した人だと云ふことを私は其頃

から知って居ます。

### 山本正人

保田の思い出 昭和10年より15年迄毎年九月初めに保田に合宿練習に出かけた。この時萩原先生が我々吹奏楽部の指揮をされた。その時代の部員は約17、8名であつた。管楽器専攻者は非常に少なく、副科にて各科の人が加わり、今から思えば非常に淋しいメンバーであつた。然し部員は非常に熱心で、午前三時間、午後一時間、夜二時間と連日猛練習をした。

初めの内は合奏とは名許りで、演奏にはならなかつた。合宿が終り東京に帰つた時は少しづつの進歩はあつた。

この合宿のおかげで、部員の技術はだんだん進歩し、何んとなく音が出る様になつた。最初の演奏は11年秋、浦和にて初演した。今から思えば恥しい限りである。然しその時は皆一生懸命に頑張つた。我々時代の管楽器教官を紹介して見よう。フリユート貫名美名彦先生、クラリネット川上淳先生、ファゴット片山頼太郎先生、トランペツト小林安八先生、ホルン伊藤善次先生、トロンボーン萩原英一先生、打楽器内藤清五先生であつた。

今の奏楽が出来たのも萩原先生の熱と意気の賜ものといつても過言ではあるまい。

### 第7回

昭和29年10月21日(木) 日比谷公会堂

Flute Solo ; Masao Yoshida

独奏 吉田雅夫

Conductor ; Masato Yamamoto

指揮 山本正人

## PROGRAM

### Part I

#### 第一部

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| 1. Overture "Poet and Peasant" | Suppé         |
| 序曲 "詩人と農夫"                     | スッペ           |
| 2. Suite "Caucasian Sketches"  | Ivanoff       |
| 組曲 "コーカサスの風景"                  | イヴァノフ         |
| 3. March "Triumphal"           | Shostakovitch |
| 行進曲 "凱旋"                       | シヨスタコヴィッチ     |

### Part II

#### 第二部

- |   |         |
|---|---------|
| 1. March "Semper Fidelis"                             | Sousa   |
| 行進曲 "永遠に忠実なれ"   | スーザ     |
| 2. Flute Solo "Carnival of Venis" arr. by C. Yamamoto | Juchan  |
| フリユート独奏 "ヴェニス of 謝肉祭"                                 | 山本力 編曲  |
| 3. Autumn Serenade                                    | Rose    |
| オータム セレナーデ  | ローズ     |
| 4. Overture "Die Fledermaus"                          | Strauss |
| 序曲 喜歌劇 "蝙蝠"   | シュトラウス  |

### 第8回

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

独奏 梅原美男

指揮 山本正人

—プログラム—

—曲目—

第1部

- |        |         |          |
|--------|---------|----------|
| 1. 序曲  | オペロン    | ウェーバー    |
| 2.     | イタリア綺想曲 | チャイコフスキー |
| 3. 行進曲 | 威風堂々    | エルガー     |

第2部

- |           |            |                     |
|-----------|------------|---------------------|
| 4. 序曲     | スペードの女王    | スツペ                 |
| 5. オーボエ独奏 | 協奏曲ハ長調第一楽章 | モーツァルト<br>(編曲 山本正人) |
| 6. 円舞曲    | 春の聲        | シュトラウス              |
| 7. 行進曲    | エルキャピタン    | スーザ                 |

日時 昭和30年6月13日(月曜日)午後6時30分 開演

会場 日比谷公会堂

主催 東京芸術大学附属吹奏楽研究部



梅原美男

第9回

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

指揮 山本正人

—曲目—

- |        |           |                       |
|--------|-----------|-----------------------|
| 1. 序曲  | ヴェニスへの謝肉祭 | A. トーマ作曲              |
| 2.     | アルジェリア組曲  | サン・サーンス作曲             |
| 3. 行進曲 | “永遠の安息”   | R. B. ハル作曲            |
| 4.     | 舞踏への勧誘    | ウェーバー作曲               |
| 5.     | パリのアメリカ人  | G. ガーシュイン作曲<br>中尾米子編曲 |
| 6.     | ピチカート・ポルカ | J. シュトラウス作曲           |
| 7.     | コチリオンの行進  | F. ポピエ作曲              |

日時 昭和30年12月9日(金曜日)午後6時30分

会場 日比谷公会堂

主催 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

第10回

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

指揮 山本正人

—曲目—

- |      |         |              |
|------|---------|--------------|
| 交響組曲 | シェヘラザード | リムスキーコルサコフ作曲 |
| 行進曲  | 観艦式     | アレクサンダー作曲    |

接続曲 海 ラン グ 作曲  
 円舞曲 皇 帝 ス ト ラ ウ ス 作曲  
 虹の彼方 ア ー レ ン 作曲  
 行進曲 フランゲッサ コ ス タ 作曲

日時 昭和31年6月11日(月曜日)午後6時30分 開演  
 会場 日比谷公会堂  
 主催 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

第11回

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部  
 指揮 山 本 正 人

曲 目

<第 一 部>

序曲 歌劇「リュスランとリュドミラ」……グ リ ン カ  
 円舞曲 「女 学 生」……ワ ル ド ト イ フ ェ ル  
 交響詩 「前 奏 曲」……リ ス ト

<第 二 部>

ラプソディ・イン・ブルー……ガ ー シ ュ イ ン  
 オクラホマ……ロ ジ ャ ー ス  
 キューパン ファンタジイ ……ケ プ ナ ー  
 行進曲 「シカゴの美人」……ス ー ザ

日時 昭和31年12月3日(月)午後6時30分

場所 日比谷公会堂  
 主催 東京芸術大学附属吹奏楽研究部

東京芸術大学音楽学部学部長 下 総 皖 一

空に響き渡る吹奏楽の音は、まことに胸のすく思いがする。恐らく吹奏楽の合奏をきいて不愉快になる人は一人もあるまい。それあるかな、世界各国に於ける吹奏楽の隆盛は、まことに目を見はるものがある。ヨーロッパでは昔から、フランスは木管、ドイツは金管といわれていたが、それだけに吹奏楽には根強い伝統がある。ドイツでは、人が二三人でも寄ると合唱をする。又トランペットを持ち出して来てあわせるというようなことは、映画など見ても分ることであろう。大人の行進はいうも更なり。小学生の行進でも、鼓笛隊があり、少し大きくなると吹奏楽となる。何十人となり何百人となつても、足を揃えて堂々と進んで行く。

さて、わが芸大の附属吹奏楽研究部も、今年で満五年を迎えて意気益々盛んなるものがある。形式の上でも内容の点でも、だんだんと充実して来ていることは、何ものにもかえがたい大きな喜びである。

吹奏楽研究部長 山 本 正 人

昭和24年12月、旧加藤学部長初め諸先生の御援助により吹奏楽研究部が生まれました。故萩原英一先生が「吹奏楽は之れから発展する、お前の一生を賭けてもり上げよ」と生前常にいわれました。部員は教官、卒業生(客員を含む)及び学生から成り昭和25年10月日比谷公会堂に於いて第1回定期演奏会を開きました。当時のメンバーは僅か50人余りでした。その頃は吹奏楽団は余り出来ておらず、東京にもバンドとしての団体は十数団体でした。第1回演奏会后、堀内敬三先生が非常によいこころみだから続ける様にと励まして下さいました。いろんな問題にぶつかり何度かやめようと思いましたが、吹奏楽の為にと念じ乍ら今日に至りました。教育、研究、演奏と常にメンバーと一体になつて努力致して参りました。この間、N.

H. K, ラジオ東京, 文化放送等に度々出演致し, 又地方吹奏楽発展の為に28年夏は, 福山, 広島方面に。秋には宇都宮, 仙台, 平方面に。29年秋には, 大阪, 京都, 静岡方面に。30年夏には, 岡山, 京都方面に。今年夏は東京労音に出演(15回)致しました。今でも吹奏楽なんかと思われる方が多くあると思います。一度お聞きになればどんなものかよくお解りのことと思います。最近, 吹奏楽は非常に進歩発達して参りました。全国各地に出来, 技術も進歩して参りました。吹奏楽連盟に於ては, 個人, 団体と毎年コンクールを実施しています。今年は12月9日大阪にて全国団体コンクールが行われます。毎日音楽コンクールに於ても今年より新たに管楽器部門が設けられました。この10年の間に管楽器の技術は非常に進歩し併せて合奏の方も向上しています。今年特に吹奏楽関係者にとつて忘れることの出来ない思い出は, 米空軍バンドの来日でしよう。隊長, ジョージ・ハワード大佐の指揮する約80名のメンバーが4月中旬より約1カ月にわたつて, 東京初め, 横浜, 名古屋, 京都, 広島, 福岡と全国各地を巡回演奏し, 日本に於ける吹奏楽のレベルを一段と向上させたことと思います。

吹奏楽研究部に於ても春秋二回の定期演奏会の他, 放送に, レコードに大いに活躍致す覚悟です。未熟な我々を御指導御鞭撻下さいませ様心からお願い申します。

#### 研究部員 大石 清

毎年正月の休みと夏休みとが終る頃になると山本先生にけしかけられプログラムやらポスターやらの作成に取り掛り定期演奏会の準備を始め, 忙しい忙しいの連発でワイワイしている内に当日になってしまいます。いつも満足出来る様なものが出来ずとうとう11回目を迎えました。第10回を行う時満5周年なので何とか記念演奏会にでもしようかと案もあつたのですがこれもいつの間にか当日になってしまったという感じで何も出来ず負け惜しみではないけれど満10年迄待つ事にしてその時こそはと考えを新たにしておと5年間の成長を待つ事にしました。始めて日比谷公会堂で吹奏楽の演奏会を開く時にはメンバーの事や曲目の事でいろいろ難があつて何

年続くやら心配でした。又幕が上つてみると関係者のみで客席もバラバラ。出演者の方が多い位でした。第2回, 第3回と進んでも余り評判は上らず途中で終るのではないかと思つていましたが先輩諸氏や各交響楽団の管楽器奏者の方々及び学校当局の御協力があり我々も発奮し頑張つて第10回迄開く事が出来て大いに感激しました。そして今回は, 6年目に入り益益進歩と発展を期待して今後の活動を続けて行く心算です。吹奏楽も此の数年来アマチュアを始め専門家の中でも認識が強くなり又聴く方の人々もシンホニーオーケストラと同じ様に理解を持つて下され回を重ねる毎に数が増え御声援も高まり我々の意を強くしています。日本の吹奏楽の中心として我々の研究部も存在価値大となりこれからも研究, 勉強して名実共に中心となる様にする覚悟であります。

#### 大学四年 大橋 秀丸

芸大に入学してはじめての演奏会が第4回の定期演奏会でした。

学生の人数が少なく普段の練習にも随分先輩が多かつたようでした。

ほんとうに何もわからず, 一人では何か曲が吹けても, いざアンサンブルに入ると, 一体自分は和音の中のどの音を吹いているのだろう, いろいろラッパのポジションをおさえてみるが, どうもみんなにとけこむ音など一度も出てこない。3小節も吹かないうちに頭の中が一ぱいになりその上ちつともブレスが続かない。ただ4時間程の練習時間を, 管楽器の合奏が持つ和音の美しいひびきと, すさまじい程のポリュームの中に酔つていたのでした。

以来毎年春秋の定期演奏や旅行, 放送等を経て第11回の定期演奏会をむかえることは非常なよろこびとするところです。何とか立派な, 有意義な演奏会たらしめたいものです。全国的に吹奏楽演奏の発達と共に近年次第に管楽器専攻の学生の数も増加し新入生の技術もずつと優秀になつて来ているようです。

吹奏楽研究部のもつ長所を充分生かし, 個人的には勿論, アンサンブルとしても理論的, 合理的に向上に向つて最短距離の学習をして行きたいも

のです。

演奏曲目も、もつといろいろな大曲のアレンジものや、又管楽器の小さいアンサンブル等々多面的に勉強して行きたい。

研究部としての定期演奏も11回目、その中で育つて来た私共ではあるが過去の惰せいに流れることなく、曲の解釈から一つの音を各様にしかも確実に吹き得る能力、又オーケストラにも相通ずるアンサンブルの要素等々充分反省してみる必要もあると思うのです。

管楽器専攻学生の将来に於ける目的は、オーケストラマンである。本校の学生も又ソロイストを目的とするものはないようです、あくまで合奏の中の一人たらんとしているのです。

プラスバンドに於ても、合奏の基礎的な勉強は勿論のことプラスバンドのみが持ち得る長所も充分生かし、皆々向上発展するよう努力して行きたいものです。

## 第12回

1957. 6. 10

日比谷公会堂

東京芸術大学附属吹奏楽研究部

指揮 山本正人

独奏 山口治

序曲	フィンガルの洞窟	メンデルスゾーン
歌劇	「ジョコンダ」より 時の踊り	ボンキェルリ
交響詩	フィンランディア	シベリウス
行進曲	スラブ行進曲	チャイコフスキー
円舞曲	酒・女・唄	シュトラウス

トロンボーン独奏 協奏曲

ペルシャの市場

歌劇「ポギーとベス」より

コルサコフ

ケテルビー

ガーシュイン

演奏 東京芸術大学附属吹奏楽研究部 主催



山口 治

## 吹奏楽と私

打楽器科教官 今村 征男

私が生れてはじめて、なまの吹奏楽を聴いたのは、小学校一年生の頃母に連れられて活動写真を参観に行つた時のことでありました。もちろん当時は無声映画で、活動弁士という今思えば不思議な商売の人が、スクリーンの横で名調子をきかせて、客を悩ませましたが、音楽の方は、どういふふうになつていたかと申しますと、専属の吹奏楽団なるものがあつて、静かなる場面では「天然の美」などを、また勇ましき場面では「軍艦マーチ」の如きものをというあんばいに、みつくろいで何かを鳴らして、適当に気分を出させるという仕掛けになつて居りました。

ところがその吹奏楽団なるものが、皆さん驚いてはいけません、たつた三人の編成で(三十人の間違いではありません)クラリネット一人、コルネット一人、大太鼓と小太鼓かけもちの太鼓叩き一人という、いともさゝやかなバンドでした。俗にいう「ジンタ」であります。それですけれども、とに角木管金管打楽器と一通りいるので広告に吹奏楽団と書かれて

も、当時では仕方ありませんでした。今ならなぐられますが。

何しろこのジンタが、ラブシーンであろうと、御臨終の悲しき場面であろうと、かまわずジンタカジンタカと、やつつけてしまつたのですから、全く始末の悪いものでした。今考えると、まことにおかしげな話であります。ところが小学三年生になつた頃、別の活動写真館が新設され、こんどは五人編成のプラスバンドが、あらわれましたので私は少し驚きました。編成はクラリネット一人、コルネット二人、アルト一人、ユーフォニウム一人だつたと思いますが、これがまあ何と申しましようか、ともあれよくまとまつていて、なかなかよい音をさせ、前の三人組とは、くらべものにならない、うれしい演奏をきかせてくれたものでした。

さて私は中学に入つた頃、陸軍大将になることに一人で決めて、二年生の時大阪陸軍幼年学校へ入りましたが、ここでは大変驚きました。なんと入学式は軍楽隊で、はでに行われたからであります。それは第四師団軍楽隊でしたので、こりやまた、ほんものの吹奏楽でありまして、いくたのびかびかした楽器から出る、たえなる音にひどく魅せられたものでした。運動会とか卒業式など事あればきて景気をつけてくれ、毎日の練習なども、いつでもききましたので至極いい具合でした。

ところで私は卒業近くなつて病氣してしまいましたので、陸軍大将になるのは止めて、何かほかの大将でも構わないことにし、士官学校へは進みませんでした。さあそうなつてみると、楽隊がやつてみたたくて仕方ありません。幸い幼年学校で唱歌の授業があつたので（教官は現大阪音楽短大校長の永井幸次先生）お玉じやくしはよめましたから好都合でした。楽器を習つてから上京して、当時優秀な学生オーケストラとプラスバンドとをもつていた法大の予科へ入りました。そしてオーケストラではコントラバスをこすり、プラスバンドでは太鼓を叩いて、六年間文字通りの遊学をいたしました。専攻はフランス文学でしたが、音楽も勉強しました。卒業してからプロのオーケストラに入りましたので、しばらく吹奏楽から遠ざかつていましたが、図らずも芸大へ勤務させて頂くようになってまたプラスバンドができるようになり、今では、こんなに大ぜいのバンドで大将にでも

なつた積りで太鼓を叩いて居ります。三人のジンタをきいた頃のことを思い出すと感慨無量であります。

しかし芸大プラスバンドも、はじめからこんなに立派ではありませんでした。一年一年育つてきて、ごらんのような大吹奏楽団となつたのであります。育ての親は山本先生でこの先生の強引かつ献身的努力のおかげであります。

われわれは、もちろん現在に満足しているものではございません。いやが上にも奮励努力して、かのフランス国のギャルド・レピュブリケースのバンドにも負けないような、すばらしいものになりたい念願であります。

皆様方の御鞭撻御後援を切にお願いする次第でございます。

大学四年 田 口 利 定

芸大の入学試験の最後の日に、僕にとっては何年ぶりに、管楽器の受験生一同動物園に行つた思い出はつい最近の様な気がしますが、今年は、はや四年になり、プラスの定期演奏会にも過去六回も参加したことを今改めて思うと、月日の立つのが全く早く感ぜられます。そして今回、第十二回定期演奏会を最上級生として迎える事に感慨無量の思いがします。初めの頃はアンサンブルにも慣れず、テクニクも追付かない有様でしたので、兎に角大変苦しめられたものでした。それ以前の事は殆ど知りませんが、人数の不足で管楽器の専門以外、つまり他の科の人も加えて演奏したと云う事を聞かされて居ます。しかし今日では音楽が盛になり、都市田舎を問わず小中高校その他あらゆる所にプラスバンドが作られている為毎年管楽器の学生が段々増え、更にそのレベルも年々上昇して来て居る為に我プラスバンドも発展の一途をたどつて居る事は真に慶ばしい限りです。しかし現在のプラスバンドは時期的に過渡期に在るのではないかと思われま

す。プラスバンドとオーケストラを比較した場合その持味は全然趣を異にして居ますが、プラスには長所も多分に在りますが、又短所も在ります。その一例を挙げますと、絃楽器の持つ様な繊細な微妙な味は仲々得られません。しかし、いつだつたか定期を聴きに来た友人が『あの力一ぱいのfに

は我を忘れさせる様な迫力があるのには驚いた。』と云つたのを聞いた事があります。

兎に角芸大のプラスも人数の増加と共にレパートリーが非常に増えて来た事は事実です。しかしこれからは、この出来上つた外廊に色をつけて行く事が残された問題ではないかと思われます。プラスの持つ特徴を大いに活かし音楽の内容を極める事に依つてその欠点を補つて進んで行きたいと思ひます。『プラスはマーチを演奏するものだ』と云う従来の観念を打破し、どの様な音楽に対しても完全なる適応性を養つて行きたいと思ひます。

今後は演奏会毎にその成果の上つて行く事を信じて止みません。

### 第13回

1957. 12. 3

日比谷公会堂

東京芸術大学附属吹奏楽研究部

#### プログラム

1. 序曲「セヴィリアの理髪師」……………ロ ッ シ ー ニ
2. 円舞曲「芸術家の生涯」……………シ ュ ト ラ ウ ス
3. スペイン綺想曲 作品三四……………リムスキー・コルサコフ

—休憩—

4. 打楽器合奏  
パーカッション・オン・パレード……………今村征男 編曲
5. 木琴独奏  
A. 行進曲「玩具の兵隊」……………山本正人 編曲

- B. 序曲「ウイリアム・テル」……………山本正人 編曲
6. サキソフォン独奏  
A. インディアン・サンマー……………阪口新 編曲  
B. エミリー……………//
7. チェッコ・ラプソディー……………ワインベルガー
8. 小径にて 組曲「大峡谷」より……………グローフェ
9. ルムバ・ラプソディー……………ベネット

吹奏楽：東京芸術大学附属吹奏楽研究部

木琴：高橋美智子

サキソフォン：阪口新

指揮：山本正人

#### Program

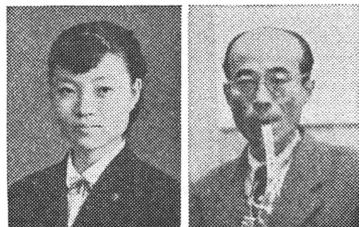
1. Overture “Il Barbiere di Siviglia” ……………Rossini
2. Waltz “Artist’s Life” ……………Strauss
3. Capriccio espagnol Op. 34 ……………Rimsky-Korsakov

—Intermission—

4. Percussion ensemble  
“Percussion on Parade”……………arr. Imamura
5. Xylophone solo  
A. March “Parade of the Wooden Soldiers”  
……………arr. Yamamoto  
B. Overture “William Tell” ……………//
6. Saxophone solo

- A. Indian Summer .....arr. Sakaguchi  
 B. Emily ..... "
7. Czech Rhapsody .....Weinberger  
 8. "On the Trail" from GRAND CANYON SUITE  
 .....Grofé  
 9. Rhumba Rhapsody .....Bennett

Band : Tokyo University of Arts Symphonic Band  
 Xylophone: TAKAHASHI Michiko  
 Saxophone: SAKAGUCHI Arata  
 Conductor : YAMAMOTO Masao



高橋美智子

阪口 新

第14回

1958. 6. 11

日比谷公会堂

東京芸術大学附属吹奏楽研究部

プログラム

1. 荘厳なる序曲「1812年」 .....チャイコフスキー  
 2. 戴冠式一歌劇「ボリス・ゴドノフ」より .....ムソルグスキー

3. 円舞曲「南国の薔薇」 .....シュトラウス  
 4. 凱旋行進曲  
 映画「クオ・ヴァディス」より .....ロージャ

—休憩—

5. 打楽器合奏  
 パーカッション・オン・パレード No. 2 .....編曲 小宅勇輔  
 6. モダン・ラプソディ「新聞の見出し」 .....コルビー  
 7. トランペット二重奏  
 デイリーヴァランス .....カテリネット  
 編曲 中山富士雄  
 8. スペイン狂詩曲 .....シャブリエ  
 9. ゴパッカーバレー組曲「ガヤルヌ」より...ハチャトゥーリヤン

吹奏楽：東京芸術大学附属吹奏楽研究部

指揮：山本正人

Program

1. Overture solennelle "1812" .....Tchaikovsky  
 2. Coronation Scene—from Opera "Boris Godunov"  
 .....Mussorgsky  
 3. Waltz "Rosen aus dem Süden" .....Strauss  
 4. Triumphal March—from "Quo Vadis" .....Rozsa

—Intermission—

5. Percussion ensemble



第16回

昭和34年6月11日(木) 日比谷公会堂

“故今村征男追悼演奏”

プログラム

- 1. タルサ—交響的肖像—……………ギリス
- 2. 円舞曲—喜歌劇「メリー・ウィドー」より—……レハール
- 3. ハンガリア狂詩曲 第二番……………リスト

—休憩—

- 4. 打楽器合奏  
パーカッション・オン・パレード No. 1 & 3  
……………今村征男編曲  
小宅勇輔改編
- 5. 金管七重奏曲……………ティルマン
- 6. サキソフオン四重奏  
a. セヴィラ……………アルベニツ<sup>(ママ)</sup>
- b. 昔の唄……………ピエルネ
- c. 蝶々……………ジャンジャン
- 7. 組曲「子供の領分」……………ドビュッシー
- 8. 行進曲「ロケットター」……………ファーレル

指揮：山本正人

吹奏楽：東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

Program

- 1. Tulsa—A Symphonic Portrait in Oil— ……Gillis
- 2. Waltz, from the comic opera “Merry Widow” …Lehár
- 3. Hungarian Rhapsody No. 2 ……Liszt

—Intermission—

- 4. Percussion ensemble  
“Percussion on Parade No. 1 & 3…arr. by Imamura Oyake
- 5. Septet for brass instruments ……Tilmann
- 6. Saxophone Quartet  
a. Sevilla ……Albéniz
- b. Chanson d'autrefois ……Pierné
- c. Papillon ……Jeanjean
- 7. Suite “Children’s corner” ……Debussy
- 8. March “Rocketeer” ……Farrell

Conductor: Masato Yamamoto

Band: Tokyo University of Arts Band

\*故今村征男追悼演奏に際して

山本正人

第17回

日比谷公会堂 [34.] 12.3 (木) P.M. 6.30

主催 東京芸術大学音楽学部後援会

御挨拶

管楽は古い歴史を持つ音楽であります。吹奏楽は管の由緒ある音楽性を

追及して、音楽の世界の高い立場を建設しようとしています。今は軍楽ではなく、芸術としての音楽になろうとしています。

そういう研究の一端を公開して御高評を願う次第であります。

東京芸術大学音楽学部長

田 尾 一 一

プ ロ グ ラ ム

第 一 部

1. 序曲「泥棒かささぎ」……………ロ ッ シ ー ニ
2. 舞踊組曲（シルヴィア）より  
「バッカスの行進」……………ド リ ー ブ
3. トランペットとドラム……………ラ ン グ
4. アメリカ古舞踊組曲……………ベ ネ ッ ト

— 休 憩 —

第 二 部

5. 打楽器 オンパレード……………網 代 景 介
6. ホルントリオ（六つのトリオ）より……………ラ イ ハ
7. オーボエトリオ……………ベ ー ト ー ヴ ェ ン
8. 交響詩 ユニヴァーサル ジャジメント……………ナ ル デ ィ ス
9. ザ ビッグ ブラスバンドマーチ……………ラ ヴ ァ ル

演 奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

指 揮 山 本 正 人

Program

1. Overture “La Gazza Ladra”……………Rossini
2. March and Procession of Bacchus, from “Sylvia”  
……………Delibes
3. Trumpet and Drum……………Lang
4. Suite of old American Dances……………Bennett

— Intermission —

5. Percussion on Parade No. 5……………K. Ajiro
6. Horn Trio……………Reicha
7. Oboe Trio……………Beethoven
8. The Universal Judgment, symphonic poem……………Nardis
9. The Big Brass Band……………Lavallo

Band : Tokyo University of Arts Band  
Conductor : Masato Yamamoto

第18回

日比谷公会堂 [35.] 6.16. (木) P.M.6.30

主催 東京芸術大学音楽学部後援会

プ ロ グ ラ ム

第 一 部

1. 序 曲「ローマの謝肉祭」……………H. ベ ル リ オ ー ズ
2. 行進曲とスケルツォ

"三つのオレンヂの恋" より ..... S. プロコフィエフ

- 3. 音楽の創造者.....D. ギ リ ス
- 4. 演奏会用行進曲「ブロックM」..... J. H. ビ リ ッ ク

休 憩

第 二 部

- 5. パーカッション・オン・パレード No. 6...小 宅 勇 輔 編 曲
- 6. トロンボーン四重奏..... a. ヘ ン デ ル  
b. サ ン サ ー ン ス
- 7. クラリネット三重奏.....ルドルフ・イェツテル

休 憩

第 三 部

- 8. アルメニア舞曲.....A. ハチヤトウリアン
- 9. ガーシュイン抜萃曲.....D. ベネツト 編 曲
- 10. 村 の 午 后..... J. ワインベルガー
- 11. ホラスタカツト.....阪 口 新 編 曲
- 12. リオのリズム.....D. ベ ネ ツ ト

指 揮：山 本 正 人

吹 奏 楽：東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

- 1. Overture "The Roman Carnival" Berlioz
- 2. March and Scherzo, from "Love of the Three Oranges" Prokofiev
- 3. The Man Who Invented Music Gillis
- 4. Concert March "Block M" Bilik

—Intermission—

- 5. Percussion on Parade No. 6 arr. by Oyake
- 6. Trombone Quartet a. Handel  
b. Saint-Saëns
- 7. Clarinet Trio Jettel

—Intermission—

- 8. Armenian Dances Khachaturian
- 9. George Gershwin Selections arr. by Bennett
- 10. Afternoon in the Village Weinberger
- 11. Hora Staccato arr. by Sakaguchi
- 12. Rhythms of Rio Bennett

第19回

日比谷公会堂 [35.] 12.8 (木) P.M. 6.30

主催 東京芸術大学音楽学部後援会

プ ロ グ ラ ム

第 一 部

- 1. バンドのための交響曲.....ポール・フォーシェ作曲
- 2. 序曲「チェスター」.....ウイリアム・シューマン作曲

休 憩

第 二 部

- 3. パーカッションオンパレード第7番.....網代景介作曲
- 4. 金管合奏「ペール・ギュント」第一組曲.....グリーク作曲
- 5. 行進曲「軍隊」.....チャイコフスキー作曲
- 6. 序曲「学生王子」.....シグマンド・ロンバーグ作曲

7. カウボーイ・ラプソディ……………モートン・グールド作曲

指揮：山 本 正 人

演奏：東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

日時 昭和35年12月8日（木）P.M.6.30.

PROGRAM

- 1. Overture: "Chester" W. Schuman.
- 2. Symphony in B flat. P. Fauchet.
- Intermission—
- 3. Percussion on Parade. No. 7 Arr. Keisuke Aziro.
- 4. Brass Ensemble: "Peer Gynt" Suite No. 1 E. Grieg.
- 5. Military March P. I. Tchaikovsky.
- 6. Overture: "The Student prince" S. Romberg.
- 7. Cowboy Rhapsody. M. Gould.

[和文と欧文では1と2の曲目が逆になっているが、これは演奏会プログラムの記載にそのまま従ったものである。]

\*フオーシェ先生 池内友次郎

第20回

日比谷公会堂 36.6.19.（月）P.M.6.30.

主催 東京芸術大学音楽学部

指揮 山 本 正 人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

プログラム

第 1 部

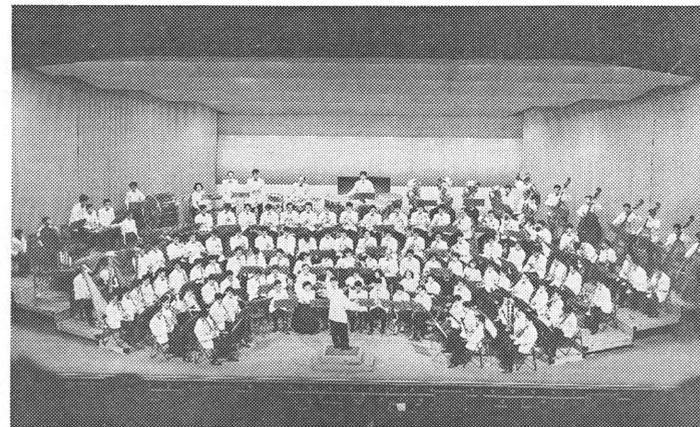
- 1. 大学祝典序曲……………ブ ラ ー ム ス
- 2. 音楽物語「笛吹きのパン」……………クレインジンガー
- 3. 吹奏楽のための交響曲……………パーシケッテイ

第 2 部

- 4. パーカッション・オン・パレード No. 8……小 宅 勇 輔
- 5. マリンバ独奏 ハンガリア狂詩曲 op. 68……ポ ッ パ ー  
山本正人編曲  
マリンバ独奏 高橋美智子
- 6. ピアノと吹奏楽のための協奏曲……………フ イ リ ッ プ ス  
ピアノ独奏 伊藤栄一
- 7. 吹奏楽のための狂詩曲「ジェリコ」……………グ ー ル ド

日時 昭和36年6月19日（月）午後6時30分開演

場所 日比谷公会堂



昭和36年6月19日、第20回吹奏楽演奏会、日比谷公会堂（写真提供 大石清）

## PROGRAM

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. Overture Academic Festival                 | J. Brahms               |
| 2. Pan the Piper                              | G. Kleinsinger          |
| 3. Symphony for Band                          | V. Persichetti          |
| 4. Percussion on Parade No. 8                 | U. Oyake                |
| 5. Marimba Solo "Hungarian Rhapsody" (op. 68) | D. Popper               |
|   | Arranged by M. Yamamoto |
| 6. Concerto in Jazz for Piano Solo and Band   | D. Phillips             |
| 7. Rhapsody Jericho                           | M. Gould                |



伊藤栄一

### 吹奏楽研究十年に寄せる

東京芸術大学音楽学部長

田 尾 一 一

吹奏楽研究は、学部の管打楽科の合奏練習の延長である。終戦当時、管打楽科は、志望者も少く楽器も整わず、辛うじて命脈を保ち得る程度になつていた。

十年前山本正人君その他の諸君が、吹奏楽研究部という名のもとに、計画的にその演奏、その研究を進めることになり、それ以来部員の充実、楽器の改善、練習の熱意、吹奏楽の全国的普及等に努力して着々とその効を

おさめて、今日の如き吹奏楽の盛時を見るにいたつた。今日吹奏楽はいたるところ、特に青少年層に愛される音楽である。

吹奏楽はもとイギリス王室の音楽として発展し、わが国にあつては明治維新以来、近代化した国家行事とともに発達したのであるが、明治以降、軍国主義の濃厚であつた大勢に応じて、陸海軍の軍楽として活動し受けとられる傾向を辿つた。然るに終戦後はわれわれひとしく民主的文化的な国家と生活を望み建設している。従つて今日の吹奏楽は軍楽ではなく、自由で、のびのびとして人の心を拓め高めるものでなければならない。芸術音楽といつてもよく、文化音楽といつてもよく、或は単に音楽というだけでもよろしい。

このような時期にあつてわが吹奏楽部員は、曲目の選定、その研究から演奏に到るまで、異状な熱意をもつて協力し、時代の要求に答え、かなりの成果と一般の認識を得て来た。歎ばしいことである。

このような著しい十年の成果を顧みて、わが吹奏楽部はここに祝盃をあげるのであるが、今はまだはじめの一段階を歩んだものと思わねばならない。その音楽性を精究することはまたこれからの課題である。この際特に作曲家諸氏の関心が望ましく新作の研究が望ましい。社会交流の趨勢から言つて、吹奏楽の強みはますます出る筈である。幸に部員諸君は若々しい、将来が期待される次第である。

### 昔と今の話

下 総 皖 一

私は、此頃各種の音楽コンクールの審査をする機会が多いが、小学校や中学校の器楽合奏の中に、中学生の吹奏楽の合奏が目だって来たことを感じる。それも、昔はなかなか音も合わず、ほんの生徒たちの興味をつなぐ程度のものであつたり、ハーモニカやアコーディオンの楽器群中に一本か二本のトランペットがはいる程度のものであつたのが、最近では本格的な編成で、然も専門家のようなのが出るようになって来た。昔は、吹奏楽器は、子供は勿論のこと、普通の人にはなかなか演奏できないものときめていた

ようで、またその演奏家に対する世間の需要もなかったせいもあるが、わが国唯一の音楽の専門学校である東京音楽学校にも、吹奏楽器の専攻学生は一人も居らず、わずか七八人の奏者を必要とする管弦楽の中にさえ、当時委託学生として種々の音楽教育を受けるために、音楽学校に来ていた海軍々楽隊の手を借りる始末であったのは、考えるだけでも心細い話である。現在、東京芸術大学音楽学部には、吹奏楽専攻の学生が毎年二十数名ずつ入学して、副科のものも合わせると、実に百数十名にのぼっているということは、前述したように、中学校で完全な編成の管弦楽合奏が行われ、専門家に比適する音色と編成をもっている吹奏楽団がある位であるから、それは当然すぎる現象であるかも知れないが、昔を知る者にとってはまことに驚くべき事実であるといわねばならない。胸のすくような金管楽器に加えて、各種の色彩をもつ木管楽器、弦バス、ハーブ、までも加えた吹奏楽合奏の壮大な音量と、目を見はるような偉観とを、私は双手をあげて大いに称賛したいと思うのである。

## 第二十回吹奏楽研究部発表演奏会に

加藤成之

昭和二十四年の頃から芸大のプラスの人々が中心になり、日本のプラスバンドを研究しなす必要があるのではないかと云う意見が多く出て来た。

プラスバンドは歴史に見てもオーケストラより古く我が国でも勿論オーケストラよりさきに発足したのであるが、種々の原因からプラスバンドは一般の人々にはオーケストラよりなにか芸術価値が低いと云う様なまちがった見方があるので、これをなんとか正常のありかたになほし、なおプラスバンドとしてオーケストラと異なる使命に向って発達させるべく研究を続けなければならない。これには吹奏楽研究所を設けて研究するのが急務であると云うのが皆の意見で昭和二十五年十二月に研究所が発足した。その結果昭和二十六年十月十七日に第一回の発表会が催される事になった。まことに感慨の深いものがある。芸術の道はまだまだ深い、これを機会と

して益々真面目な研究が望まれる。

## 座談会

“吹奏楽十年の歩み”

36. 4. 17.

於 芸大音楽学部会議室

山本〔正人〕 本日は、おいそがしいところ、どうもありがとうございます。今回二十回、十周年の定期演奏会を迎えるに当りこれを記念しまして、その思い出を、いろいろ話しあってみたいと思います。まず吹奏楽のあり方、それから吹奏楽にいちばん必要な楽譜の問題、それから現在必要な楽器の状態、これをそれぞれの部門にわたっているいろいろ述べていただきたいと思います。そもそも、芸大における吹奏楽の起りは、旧制音楽学校がなくなって芸大になったときに、前学部長加藤先生の頃ですが東京音楽研究所というものができました。それは器楽科、作曲科、オペラ科、吹奏楽科と、四つの部門に分けられ、それが起りです。その後ずっと続けてきているのは、吹奏楽だけです。昭和二十六年十月十七日、朝日新聞社（東儀、五十嵐氏）の援助を得て日比谷公会堂で演奏会が行われた。それが第一回です。非常にメンバーも少く、学生はほとんどいなくて、卒業生教官あるいは外部の人、そういうものから成り立っていました。五、六十名だったと思います。

大石〔清〕 今、山本先生からお話があったように、吹奏楽研究部というものができて、始めたわけですが、そのころの学生は、まだ数も少かったですし、結局学生本位ではできませんでした。そのころ、警察あるいは消防、自衛隊ではない、保安隊などに音楽隊ができたというので、そういう人達を集め、ひとつ吹奏楽の中心団体を作ろうということで、練習を始め、放送などを何回かやりました。そのうちに、日比谷あたりで演奏会をやるうではないかということになり、吹奏楽連盟のある関係上、朝日新聞社に話に行った。そうしたら朝日新聞社でも、それではうちでやってみようではないかということになって、あそこの厚生文化事業団が、主催をし

てやってくれたわけです。それから、なんとか音を出して別項のようなプログラムで、演奏をやったわけです。そのうちに、もう少ししゃれたものをやろうではないか、しかも年々続けていこうという意見が非常に多くなって、定期にしたいということになったときに、定期演奏の主催は、新聞社ではできない、それじゃ吹奏楽研究部を主催団体としてやっていこう、ということで始めたのが、そもそもの起りです。それから、年に二回春と秋に日比谷で定期を続けてきたわけです。その間に日本の吹奏楽界は、どんどん盛り上ってきて、東京だけでなく、関西でも市音楽団、警察音楽隊とかが非常に進歩してきて、立派な演奏をするようになってきた。こういう大学のことで、なかなか思うようにはいかないわけです。その思うようにはいかない中で、新しい楽譜をいれたり、新しいスタイルをいれたり、それから学生は年々かわっていく。初めのうちは先輩中心になっていたのが、学生が多くなってきたことで、学生中心になってきて、それに教官あるいは外部の人が入って、初めは五十名くらいで、どうにか人を集めてやったのが、今は、人をけずっても百人になってしまう。年々回数をかさねる毎に数がふえている。自慢するわけではないのですが、百人以上の編成というのは、うちだけだと思います。とにかく数の点では日本一、しかも純（準）専門家の集まり、純と準の両方ですが、とにかく一応専門家の集まりで、音をあわせる心配はない。楽器にしても、信用のおける音程の楽器ばかり、しかも楽譜を読む上においては心配がない、という連中ばかり集めてやっているわけです。それを参考として、だんだんと、一般のアマチュア団体、あるいはその他の警察、自衛隊、それから市民バンドというのが、いろいろと進歩してきたのではないかと。こういう感じを持っているわけです。今後もそういうふうにしていきたいと思います。この十年の間に、どうか変わったか。中にいると、あまり気がつかないもので、外のほうからお話を聞きたいと思うのですけれども。

**山本** 秋山さん、外部から見た、うちの行き方をどう思いますか。

**秋山〔紀夫〕** 芸大のプラスというのは、一つの名物ですね。この十年間に、あれだけの固定したお客さんをつかんで、吹奏楽をやっているものに

とって、どうしてもききのがせない年中行事になってたいへん楽しませていただいております。最初の演奏会でトランペットがズラッと並んで、パーッと吹かれたときには、ほんとうにびっくりしました。そのびっくりしたすばらしさというものが、いまだに感激が続いているようですね。聴衆のほうからみても今切符がずいぶん売れちゃって、困るくらいじゃないですか。

**山本** そうですね。

**秋山** 満員ですし、とても楽しいと思います。また、一つの芸大の演奏スタイルやプログラムの作り方というのが、かなりいろいろな団体に影響を及ぼしている。たとえば、芸大でトランペット・トリオをやって、それをやってみたいというようないろいろな意味での啓蒙の役も、ずいぶん果していると思いますし、またあの演奏会をきいて、ヨシノおれもひとつ管楽器を勉強してやろうと思って、大学へ入った人も、ずいぶんいるのではないかと思います。そういう意味で、日本の吹奏楽界のほんとうの中心となって、演奏会を開いてくださることは、非常にファンにとってもありがたいことだと思います。もう一つ欲をいえば、戦前ですと、いわゆる戸山学校とか海軍軍楽隊というものがあって、そこで管楽器を専門に教えていたわけですが、戦後そういう拠り所がなくなって、大学だけが管楽器を教えてくださっているわけですが、なお一步進んで吹奏楽を教えるというものがぜんぜんどこにもないわけですから、そういう意味でも、吹奏楽の総本山というような形で、大学の果している役割は、非常に大きいと思いますね。

**山本** 今、吹奏楽の話が出ましたけれども、大学でもいろいろ考えているのですが、大学の校規、学校の規則をかえないとむずかしいです。吹奏楽専門にとるということは、管楽器の部では考えているわけですが、それは法令的に、そういう科は設けられないのです。ほんとうに、東京芸術大学に吹奏楽学部というものができると、理想だと思います。そしてそれがどんどん地方の吹奏楽の指導者になっていくべきだと思いますが、これは法令で、なかなかこういう官立大学は思うようにはいかないのです。

**大石** それから資料についても、吹奏楽中心にというわけにいかないのだから非常にづらいところがあるのです。楽器にしても、オーケストラ中心のように買って行くので、いわゆるプラス用の楽器というものが、なかなか手に入りにくい状態です。

**山本** 吹奏楽でいちばん必要な、メロディもあるけれども、リズム楽器、打楽器、この打楽器が非常に進歩したと思います。それについて小宅さん……

**小宅〔勇輔〕** 吹奏楽が発達したおかげで、打楽器が発達してきたので、たいへんありがたいと思っております。しかし三十四年に打楽器科の教官でありました今村先生が亡くなりまして、先生は、打楽器を育てるのに、非常に苦労されたと思います。最初は、ほんとうに生徒数も少なくて、エキストラを頼んできて、やっていたのでありますけれども、年々生徒はふえてやっと充実してきたとき、先生がお亡くなりになられたので非常に残念に思っております。今生きていらっしゃったら、非常に喜んで張りきってやったださと思えます。まあ今後ますます打楽器は志願者もふえて来ましたが、これが非常にあたりまして、これがまた志願者がふえる原因だと思えます。あれは非常に勉強になると思えます。山本先生がお始めになってくださって、たいへんうれしく思います。

**山本** 吹奏楽で、今までの観念では、ホルンを使わなかったのですけれども、最近はホルンをだいぶ使うようになったのです。意義があるかないか、谷中先生、お願いいたします。

**谷中〔基作〕** 第一回の演奏会当時のホルンというと、非常にレベルが低くて、音程を狂わして、ごまかしているような状態で、非常に拙劣な演奏しかできなかったのです。それに学校としてもホルン専攻の生徒が少なかったときで、外部から、学校の卒業生などに来てもらったりして、非常に苦労していたのです。その当時の楽器にしても、非常に悪い楽器で、三十年も前に使っていた楽器を、その当時間も使っていました。それでだんだん生

徒も多くなり、充実してきました。最近では楽器もほとんどアレキサンダーの製品が出まわってきまして個人個人がみんな持っているような状態になり、現在は学生も各学年に二人ずつ居るような状態で、オーケストラにしてもプラスにしてもホルンのレベルがあがってきたので、大体心配なく演奏できるような状態になってきたわけです。

**山本** では吹奏楽でいちばん花形のトランペット。大学ではあまりコルネットを使ってませんが、中山さんどうですか。

**中山〔富士雄〕** ともかく、たいへんな吹奏楽の進歩で、戦前からみると、想像もつかないくらい、人数がふえてきましたね。昔はともかくトランペットを使っていますが、もっともトランペットしか楽器が入ってこなかったせいもありますけれども、私の持論としては、やはり長い歴史を持った、ヨーロッパのプラスバンドが、トランペットを使ってないで、コルネットを使っておりますが、それにはちゃんと深い意味があるし、大いに理解できるものがある。だから、なんとかしてコルネットをプラスバンドに使うように持っていきたい。今の若い人たちは、トランペットはジャズに通ずるものを感じるのだから、その華やかさに感じているらしいのですが、それをなんとか早く、われわれの吹奏楽もそれにふみこまなければ音色とかバランスの問題で、明かるい吹奏楽ができちゃって、シンフォニックバンドにならなくなる。音楽の中には、暗い感じや幅の広いふとい感じという、コルネットで出さなくちゃ出ないものがありますから、そういうニュアンスに富んだ合奏団を作るという意味でも、コルネットを使わなくちゃならないと思います。トランペットは、音が刺戟的ですから、それが主役を務めると云う事はニュアンスの上でも考えられない。やはりコルネットを主として、そして装飾的に、もしくはトーンカラーをつけるためにトランペットを使うということに、早くいきたいと思えます。そして、又その必要を切実に感じるセンスをもった人をつくらなければならないのです。やはりほんとうは吹奏楽の世界に、警視庁だの自衛隊などの吹奏楽の他に、ちょうど日本にオーケストラがあるような形で、専門の吹奏楽団があっていいと思うのです。まだまだ、それにはだいぶ時間がかかるかもしれ

ませんけれどもそろそろそれがあらわれる気運がどこかに感じられるわけです。それが実現して、それが非常な見識を持って、権威のある演奏をして、ほかの吹奏楽団を引張っていくような役割、それから養う役割をする行き方をしたいと思います。ある意味ではそれも国民教育の一つの方法だろうと思うのです。トランペットの技術も、向うから立派な人が入ってきて、いろいろな外国の演奏を、じかにきくチャンスが非常に多いし、楽器の点でも学ぶ面が多いので、これはいずれ日本管楽器の大村さんからお話があると思いますが、日本の楽器も改良されていくと思います。日本の楽器で日本のプレイヤーが演奏するという時代が来たら、どんなにすばらしいだろうと思います。

**山本** 今、楽器の語が出ましたけれども、日本における楽器の状態、大村さんいかがですか。

**大村〔兼次〕** 楽器の需要も、みなさんの熱心な御指導のおかげで、数量的にも非常に多くなりました。一方、質の要求も高まり、相当シビアな御要求がありますので、ただ今切磋琢磨して、努力しているわけでございます。まあ需要の数の多いということは、やはり楽器の発達を非常に多くさせることになると思うのでございます。現在、日本のバンドの数が、大体学校のバンドで約四千八百、職場の団体が四百四十九、約五百です。これだけあるわけです。これがまた最近、芸大の演奏するプログラム乃至はそうしたようなもの、の刺戟から、編成が非常に大きくなって、幅が広がってきた。一つは、吹奏楽連盟のコンクールの影響もあろうと思いますが、そういうことのために、団体の数量がふえてきて、そしてその音楽団体の質が上昇してきたのでありますから、数量もふえ、質もやかましくなる。そんなことで、管楽器会社としましては、もうてんでこまいの状況なのです。数量もカバーしなくちゃならん。品質も上昇しなくちゃならん。これはよくうれしい悲鳴ではないかと、みなさんが一口におっしゃいます。これはとてつもないへんな仕事でございます。先生方の前で、私が楽器の状況を御報告申し上げることはこれはむしろ蛇足にすぎません。もとより本日お集まりの先生方は、ヴェテラン中のヴェテランであるし、最高学府の

先生方ですから、持っていらっしゃるレベルは非常に高いわけでございますが、私共の今課せられた問題の中に、秋山先生なども中核として非常にお働きになっていらっしゃいます。いわゆる中学校のプラスバンドをこれを正課にしたいというような御意向もあるように承っておりますが、さように世の中の要求は非常に高まってきておるわけです。そういう面と、今一つは今中山先生がおっしゃったように、もし日本人が日本の楽器で吹奏できたら、非常に愉快じゃないか。これは全く御尤もなことで、この面に狂奔しているわけです。現在私共の工場は五百人の工員でいたしておりますが、先日の官報で発表いたしましたように、会社も資本金を、今まで二千万円でありましたが、五千万円にふやしまして、三段飛びくらいに、だんだんと増強して大飛躍をとげようと思っております。これには、やはり工員というものの質が上昇しなければならず、それから数もふえていかななくちゃならん。これが先程申し上げました、二面作戦でございます。それでは、今大村がこういうことをいったけれども、一体どうなんだという御質問が、多分おありだと思うのですが、現状におきましては、結局われわれの現在作っているもののレベルを、まず一時に上げなくちゃならん。これが今の課題です。そして、この間から諸先生の御指導をあおいでいるわけですが、即ちスペシャル・マークというものです。それと一般品を作るというパーツと、両方の部門に分かれていかなければ、とうていわれわれは先生方の御期待に添う段階までいかないのではないかと、というふうに考えております。プラスに関する限りは、完全なプロポーションを持ったものでいいものができれば、あと残る問題は、金質の問題です。金質の問題と申しましても、焼きいれの問題とか、熱処理の問題というようなことで、ある程度までカバーできるのではないかと、というようなことを、考えるわけです。管楽器の、特に金管楽器に関する限りは先生方御承知の通り、ある程度のレベルまで到達しているといつていいと思うのですが、最近私共も、尚一層の改良を続けているわけでございます。木管については、これもまた先生方の御指導を得て、これも日本のトップ・メーカーとしての責任は完全に果し、現在外国からもずいぶんオーダーがまいつているわけで、

これをふみきるのに、実は非常に苦しんでおるわけです。そういうようなわけでございます。結局私がここで、専門の先生方を前に置いて、どうこういうことは、はなはだ僭越至極でありますから、私は一般情勢にそなえて、トップ・メーカーとして責任は十分に果していることの自信を持っていることは、はっきり申し上げますが、それが外国の製品とくらべてどうかというような問題につきましては、これは私共のセンスも養成しなくてはならず、また先生方の御要求も全部満たさなければならぬ問題でありますので、私共としては、この五月あるいは六月の初旬までに、大きなレセプションを開いて、これはむろん大学の先生方を中核とする訳ですが、他にNHKその他の交響楽団、吹奏楽団の専門の方に各種の管楽器を吹奏してもらって、そしてその楽器をお目にかけて、このレベルにまで会社は到達しましたということ、みなさんにお知らせいたしたいと考えております。これは実は東京で最初にやろうと思いましたが、はなはだ上げると、変なような印象をお持ちになるかもしれません、御承知の通り大阪は、団体が少のうございますし、専門のプレイヤーも比較的少いですから、第一回に大阪でやりまして、その状況によりまして、東京でいたしたいというわけです。それまでに専門の先生方にぐんぐん指導していただいて、とにかく第一回のレセプションによって、一歩でも二歩でも、あるいは一歩でも半歩でも前進している状況をみなさんにお目にかける。これは各種の楽器全部に亘りいたしたいと思っております。そんなふうな心組みでおります。

**山本** 現在の管楽器としては、日管は相当やったださっていると思います。今までのいろいろのお話が出ましたけれどもまずこの十年間を思い出して、萩原英一先生が亡くなられたこと、今村征男先生が亡くなられたことは、非常に痛手でした。しかし教官初めみんな一致して、やっとここまでもたまた歩くようになりました。これはみなさま方のおかげだと思います。今度は、現在日本における中学校、高等学校の吹奏楽団のあり方ということについて、ちょっと秋山さん……

**秋山** 先程から申し上げますように、戦後吹奏楽を新しい形で出発

させたとき、何をいちばん手本にしたかということ、もう軍楽隊もありませなし、結局芸大のプラスというものを見ききして、一日も早く、ああいう立派な編成やいい音を出したいものだというふうになって勉強したのが、プラスを始めた最初ではないかと思えますし、また芸大の講習会等で、管楽器の先生方に接触して、その技術をみんなが地方に持って帰るというのが、現状だったと思います。そういうことを毎年かさねておりまして、その刺激によりまして、全国の中学校や高校の先生方が、少くとも吹奏楽をもっと音楽的にしようということになってきたことは、この大学の吹奏楽研究部から得られた、いちばん大きな収穫だと思います。技術の面とか編成の面とかは専門バンドではありませんから、真似はできないにしても、吹奏楽をより音楽的にという、いちばん大きな教訓はこの芸大の吹奏楽研究部から得られたのではないかと思えます。そういう意味で、中学校や高校の団体がここ数年来、非常に音楽的な演奏ができるようになってきたということ。その裏には、やはり大学の研究部が中心になって吹奏楽を進められた点が、非常に大きく作用しているのだと思います。ただ、そういう音楽的に演奏するというのみに走っていて、というのは、技術をあげなくちゃいけないというので、今、楽しめるバンドというのが、非常に少ないようにも思えます。うまいバンドは、技術とか音楽的だとかに夢中になって、楽しむということが非常に少いだろうと思えますけれども、もっと、いつもの大学の演奏会のように、楽しめる面を持ったバンドにならなくちゃいけないと思います。これはコンクール等を通じて、年々学校バンドの技術があがってくると同時に起ってくる、一つの弊害だと思いますけれども、そういう点、技術や音楽的な吸収の面と同時に、もっとアンサンブルしながら楽しめるような、そういうバンドになってくれれば、いいと思います。そういう意味でも、大学のプログラムや何かは、かなり中学や高校にも、いろいろな面の影響をあたえていると思えますので、これから、いいプログラムや為になる曲をうんとときかしていただきたい。そういうことは結局、中学校や高校の大きな勉強になっていると思えます。同時に、芸大がなされる、地方の演奏旅行でも、かなりな数の中学生や高校生

が、いい意味の刺戟をたくさん受けていると思います。そういう意味での刺戟も、今後大いに地方の方々にきかしていただきたいと思います。

**山本** プログラムの変化ということでは、打楽器をいれたのは、何回からでしたかね。

**秋山** 十三回からです。

**小宅** 四年くらい前からだね、今度が八回目というわけです。

**大石** 初めのうち、プログラムを作るのに、だいぶ無責任な作り方をしてしまったもので、手当たり次第、学校にある譜面から選んでやったわけです。それで曲の順序とか種類とかいうものを選ばないで、ただわれわれの好きな曲、知っている曲から選んで、やってしまったわけです。しかも初めのうちは、こんなに続くと思わないので、資料を残していないので、はっきりしないのですが、かろうじて一回からの曲がわかってきた。そういうような状態で、最初のうちのプロは、「ハンガリア・ダンス」とか「未完成」「ハンガリア・ラプソディ」「軽騎兵」「時の踊り」とか、チャイコフスキーの「くるみ割り人形」という、オーケストラの曲の編曲というものが多かったわけです。これが四、五年続いたのではないかと思います。オリジナルな曲は、マーチくらいなもので、あるいはそのころ流行ったジャズ的なものを、プラスにアレンジしたものが多かった。しばらくそれをして、みんなの耳に慣れてもらおうという状態でやってみたわけですが、その後、やはりプラスはプラスとしての曲があるのではないかと調べたら、あるあるわ、数千曲あったのではないかと思います。目についたもので、数百曲。その中で、われわれにやれそうなものを、あっちこっち手にいれて、やるときまってみると、どこかの町でやった、どこかの職場でやった、大阪でやった、というわけで、後手をふんで、くやしい思いをして、今度こそ新しい曲だというわけで、調べてみると、どこかでやったというわけで、いつも後手になっていたわけですが、今後もどんどんオリジナルなものをやっていきたいと思います。あるいは作曲家に依頼してみたり、日本人の作った曲をとりあげるといって、新しい面を開いていきたいと思います。それからもう一つ問題があるのは、編成の問題です

が、大体一般にオリジナルな曲は、枚数からいって、四十枚から五十枚です。そうすると人数からみて、八十人くらいが適当ではないかという気がするのです。うちの場合は、それが学校の一つの教育機関であるために、機会均等で、全員出なくちゃならない。そこに、作曲者の意図と違った響きが出るのではないかと思います。これも年々メンバーが充実してくるに従って、今後は、上級生だけの演奏、あるいは選抜メンバーにするというような形で、いいものにする予定でいるのですが今のところは、とにかく全員でやるということで、オリジナルのほんとうの音が出ているかどうかは、心配な面があるのです。これからオリジナルな曲は、ほんとうに作曲者の意向を伝えられるような演奏をしてみたいと考えているわけです。それから楽器の面では、われわれが育ったのが、とにかく日管の楽器できたわけです。あくまでも、日管の楽器というものをいいものにしていくというので、努力しているわけですが、今のところ専門家としては、どうしても舶来の楽器を持つようになっているのです。その面で、その楽器から得た経験から、あるいはなぜそういう音がするのだという経験の面から、これから会社のほうとも相談して、いい楽器を作るという面に持っていきたい。それで外国のイミテーションではなくて、日本の管楽器というものが、ほんとうに日本で設計され、日本人が作ってまにあうというものになりたいと考えているわけです。とにかくわれわれが演奏家として、大きな顔をしていられるのは、日管の楽器のおかげであるという気持があるわけです。

**大村** 今、大石先生からお話が出たのですが、私共で先生方へお願いして、楽器について御批判を願ったわけです。いろいろ考えてみたところが、これは先生方にお目にかける前に、やらなくちゃならない仕事がたくさんあるのです。みなさま方がお考えになったら、日管はちょっとなまけているのではないかという印象をお持ちになつたろうと思うのですが、その間はけっしてなまけているのではなくて、金質の問題にしてもむろん研究しましたが、いわゆるメカニズムの問題で、まだやるべきことがたくさんあるのです。そういうようなやり方をいろいろ研究した結果、先程申し上げたように、この辺で一度みなさま方にお目にかけて、それからもう一度

スタートしようというのが先程申し上げました、私のお話の趣旨なのでございます。御参考までに申し上げますと、アメリカの吹奏楽は非常に盛んでございまして、数量的に申し上げますと、クラリネットなどは、約十萬本一カ年に消費されております。それからサクソフォンが大体十一萬本という数字が消費されておる。そういう面から、私共が先生方にいろいろお願いしたり、あるいは連盟の御援助を願ったりしているというのは、結局楽器の需要が多くなれば、結局その面において、必ず楽器の進歩もとげていかれると。こういうふうに考えるわけです。日本の場合は、クラリネットは、年間で六千四百本、トランペットが一万二・三千本というような数字でございます。この数字を見ても、アメリカなどと実に段があるわけです。私のところは、大体全国の使用量の八十%を占めていると考えておるわけですが、どうもアメリカの足元にも追いつかないというような気がするわけで、一面からみれば、事業として、将来非常に希望の持てる事業だと思えますが〔、〕なんといっても、製品の品質をよくしなくちゃ、問題になりませんから、それに先程申し上げた、両面作戦で一生懸命にやっているわけでございます。

**大石** それと、最近中学、高校の先生がみんな楽器というものを認識するようになってきたのですね。ということは、結局先生が管楽器を知るようになってきたということです。それもわれわれのおかげじゃないかと自慢しているわけです。数年前第一回の吹奏楽の指導者講習会というもの、連盟でやったのですが、そのときに来た先生で、音楽の先生というのは、一割もいなかったのです。それが最近、約半数くらいが音楽の先生です。それからコンクールの出演団体の指導者を見ましても約半数が音楽の先生になっている。そのうちの半数くらいが、われわれの大学から出た連中ですが、それが管楽器じゃないのです。声楽科を出て、高校の先生になったのが、棒を振ったり〔、〕あるいは地方の大学から委託で、二年間管楽器を勉強したのが棒を振って、一位になったのが、去年は全国大会にまで出てきました。そのくらいに、先生になる人が、管楽器というものに知識が出てきた、今後もそういうことからいろいろ刺戟を得るのではない

か。逆にわれわれも、教えられることが多いような世の中になってきた。逆にこっちが知識を得なくちゃならない〔。〕この秋山先生も、十年前は、単なるラッパ吹きだったのが、日本一の吹奏楽研究家になっているので、それだけの変化というもの、やはりいろいろあったのではないかと思います。

**秋山** プログラムを拝見していますと、ずいぶん変化があって、十年の動きというものが、よくわかるような気がするのです。今大石先生がおっしゃったように、最初はオーケストラもの、それから一時たいへんコンチエルトをなさったことがありますね。フルートもありましたし、オーボエもありました。それからパーカッションが誕生したりして、パーカッションも一つの名物になっておりますね。毎回、何が出て来るかということが、楽しみです。

**大石** この辺で、あれもひとつ飛躍したいと思います。今までは、知っているふしを並べたというような、太鼓の紹介みたいなことだったけれども、今後は芸術的なものにしようと思っております。

**小宅** これからは、ほんとうの技術的な方面に伸ばしていかないと、ただみんなが知っている歌だけやっているのではだめだと思います。

**大石** この前だったかしら、金管合奏をやって、えらい恥をかいたけれども、あれも逆にいうと、きいている人の耳がこえて、われわれはやっつけられたわけです。あれを五年前にやっていたら、立派なもので通ったのではないかと思うのですが。

**秋山** でも、ああいう合奏もプログラムの中に入ってきたということは、たいせつなことだと思います。

**山本** その点では、今度の金管のよさを挽回するために、そのうちやります。

**秋山** そうなると、Esコルネットとかビューグルとか、いろいろな種類が必要になってきますでしょうね。

**大石** とにかくイギリスの合奏をきいてみると、木管というのは、そういっちゃ悪いけれども、使いたくならない気がするほど、金管はいい音が

する。

山本 ここで秋山さんをお願いしたいのですが、世界各国の編成はどうでしょう。フランス、アメリカ、ドイツと、国によって違うと思うのです。それがいちばん根本なのは、なにもわれわれは、よその真似をするのではないので、日本の吹奏楽の編成を夢見ているわけです。そこまでいく時代も来るのではないかと思います。

秋山 大学の編成を見てみますと、コントラファゴットまであって、木管の下が多いと思いますが、クラリネット族の低音〔、〕バス・クラリネット、アルト・クラリネットがもう少しほしいような気がしますね。最近はプログラムに、大石先生がおっしゃったように、アメリカのオリジナルな、シンフォニックな曲が多くなってくると、どうしても、木管の下を厚くして、木管だけで鳴らすというような感じが、ほしくなりますね。そういうオリジナルなプログラムがふえたということは、大学の編成もさることながら、一般の日本の吹奏楽の聴衆が、いわゆる「軽騎兵」と「波濤をこえて」ばかりではなくて、管独得の音色やテクニックを生かしたい曲があるのだということを、広く知ってもらいたい目的が、多分にあると思いますので、お客さんも、そういうききなれない曲だからといって、食わず嫌いではなくて、大学の演奏をきいていただいて、管楽器のおもしろさとかあるいは新しさというものを、知っていただくといいと思います。

山本 色々有難う御座居ました。

## 第21回

日時 昭和36年12月5日(火)午後6時30分開演

会場 東京文化会館(上野公園)

指揮 山本正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

## 曲目

## 第1部

1. 吹奏楽のための序曲……………メンデルスゾーン
2. 交響的四章「雲への頌歌」……………小川原久雄  
メゾ・ソプラノ独唱 戸田敏子 詩 三好達治
3. ターンブリッジフェア……………W. ピストン

## 第2部

4. パーカッション・オン・パレード No. 9…有賀誠門 編曲
5. ブラスセクションアンサンブル  
「アデストフィデルス」……………A. ゴールドスミス
6. バリトン独奏「セリア」……………ブライト  
バリトン独奏 石崎一夫 石崎一夫 編曲
7. トロンボーン四重奏「トラバドウルス」…D. ベネット
8. メキシコ民謡を主題とする交響曲  
「メキシコの祭り」……………H. O. リード

## PROGRAM

1. Overture for Band Mendelssohn
2. 4 Mouvments Symphoniques “Ode aux Nuages”  
Ogawahara  
Mezzo-soprano solo: T. Toda
3. Tunbridge Fair Piston
4. Percussion on Parade No. 9 arr. by Aruga
5. Brass Section Ensemble Goldsmith  
“Adeste Fideles”
6. Bariton Solo “Celia” Bright

7. Trombone Quartet "Trabadoours"

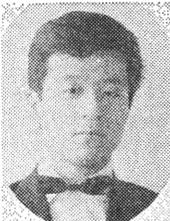
Bennett

8. La Fiesta Mexicana

Reed



戸田敏子



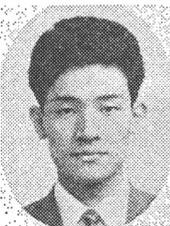
石崎一夫



梶原征剛



伊藤 清



飯吉靖彦



浅田徳雄

第22回

昭和37年6月29日(金) 午後6時30分

東京文化会館

主 催

東京芸術大学音楽学部

指 揮 山 本 正 人

ナレーター 外 山 浩 爾

演 奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

曲 目

第 1 部

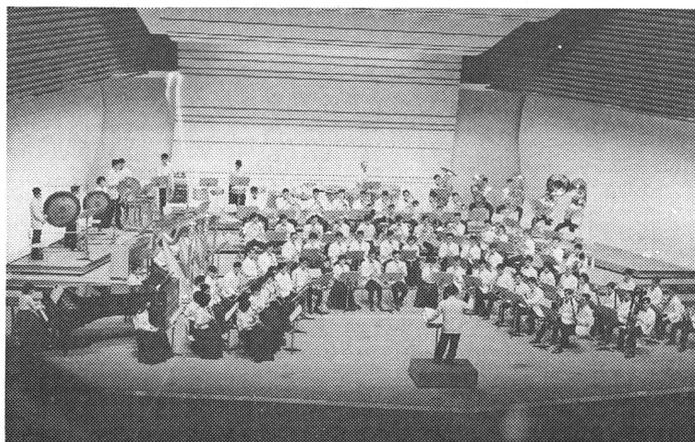
1. 序曲「シチリア島の夕べの祈り」……………ヴェルディ
2. 行進曲「シャンゼリゼ」……………リシャール
3. 音楽物語「チューバのタビーちゃん」……クレインジガー
4. 吹奏楽のための即興曲……………森村寛治
5. トッカータとフーガ……………バッハ

第 2 部

6. パーカッション オン パレード No. 10 ……小宅勇輔 編曲
7. 木管重奏「クラリネット四重奏曲」a. ……ロジェル[.]グループ  
b. ……村井嗣児
8. 序曲「コラ・ブルニョン」……………カバレフスキー
9. バラード フォア バンド……………M・グールド

PROGRAM

1. Overture "The Sicilian Vespers"……………Verdi
2. March "Champs-Elysées" ……………Richard
3. Tubby the Tuba ……………Kleinsinger
4. Impromptu for Band ……………K. Morimura
5. Toccata and Fugue, D minor ……………Bach
6. Percussion on parade No. 10 ……………Y. Oyake
7. Clarinet Quartet……………[a. R. Goeb b. T. Murai]
8. Overture "Colas Breugnon" ……………Kabalevsky
9. Ballad for Band ……………Gould



昭和37年6月29日，第22回吹奏楽演奏会，東京文化会館（写真提供 大石清）

第23回

昭和37年12月3日（月）午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

指揮 山本正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

曲目

第1部

1 交響曲 変ロ長調……………ヒンデミット

- 2 組曲 仮面舞踏会……………ハチャトリアン  
 3 行進曲 若いころ……………堂本誉次

第2部

- 4 パーカッション オン パレード NO. 11……………有賀誠門  
 5 サクソフォン四重奏  
     ソプラノ 塚本紘一郎   アルト 佐藤せつ子  
     テナー 鏑木融       バリトン 大室勇一  
     A イントロダクションとスケルツォ……………クレリス  
     B かくれんぼ……………クレリス  
 6 序曲 ザムパ……………エロール  
 7 ページェント……………パーシケッティ  
 8 交響詩 ローマの松……………レスピーギ

PROGRAM

1. Symphony in B flat……………Hindemith  
 2. Masquerade Suite……………Khachaturian  
 3. March “Spirit of youth” ……Domoto  
 4. Percussion on parade No. 11……………Aruga  
 5. Saxophone quartet  
     a. Introduction et scherzo ……Clerisse  
     b. Cache-cache ……Clerisse  
 6. Overture “Zampa” ……Herold  
 7. Pageant……………Persichetti  
 8. Symphonic poem “Pini di Roma” ……Respighi



東京芸術大学音楽学部

指揮 山田和男(第1部)  
山本正人(第2部)  
演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

曲 目

第 1 部

- 1. 序曲「ローマの謝肉祭」 ベルリオーズ
- 2. ハバネラの形式による小品 ラヴェル
- 3. 歌劇「売られた花嫁」より「三つのダンス」 スメタナ

第 2 部

- 1. パーカッション・オン・パレード No. 13  
打楽器群のための「級数的遠近法」 石桁真礼生
- 2. 行進曲「朝のステップ」 小川原久雄
- 3. 戸外の序曲 コープランド
- 4. バンドのための幻想曲 エリクソン
- 5. バンドのための組曲 第1番 ホルスト
- 6. " " 第2番 "
- 7. トッカータ・マルチアーレ V. ウィリアムズ

Conductor: Kazuo Yamada  
Masato Yamamoto  
Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

PROGRAMM

- 1. Overture "Le Carnaval romain" H. Berlioz
- 2. Pièce en forme de habanera M. Ravel
- 3. Three Dances from the opera "Bartered Bride" B. Smetana

- 1. Percussion on Parade No. 13  
"Perspective by Progression" for Percussions M. Ishiketa
- 2. March "Footsteps in the Morning" H. Ogawahara
- 3. An Outdoor Overture A. Copland
- 4. Fantasy for Band F. Erickson
- 5. Suite for Band No. 1 E $\flat$  Major G. Holst
- 6. Suite for Band No. 2 F Major G. Holst
- 7. Toccata Marziale V. Williams

第26回

昭和39年7月2日(木) 午後6時30分

東京文化会館

主 催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 1 部

- 1. 演奏会用序曲 H. ハドレー
- 2. コロニアル ラプソディー E. マデン
- 3. 夏の日組曲 プロコフィエフ

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 4. 牧神の午後への前奏曲      | ドビッシー<br>大石 清編曲 |
| 5. 交響組曲            | ウイリアムズ          |
| 第 2 部              |                 |
| 6. パーカッション オン パレード | 岡田知之            |
| 7. 小さな鉛の兵隊の行進      | ピエルネ            |
| 8. 死せる王女の為のパヴァーヌ   | ラヴェル            |
| 9. 抜粋曲「メイタイム」      | ロンバーク           |
| 10. レパブリック賛歌       | 野田暉行編曲          |

指揮 山本正人  
演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAMM

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1. Concert Overture                    | H. Hadley        |
| 2. A Colonial Rhapsody                 | E. Madden        |
| 3. Summer Day Suite                    | Prokofieff       |
| 4. Prélude à l'Après-Midi d'un Faune   | Debussy          |
|  | arr. by K. Oishi |
| 5. Symphonic Suite                     | C. Williams      |
| 6. Percussion on Parade No. 14         | T. Okada         |
| 7. March of the Little Leaden Soldiers | Piagné           |
| 8. Pavane                              | Ravel            |
| 9. Maytime Selection                   | Romberg          |
| 10. Battle Hymn of the Republic        | arr. by T. Noda  |

Conductor : Masato Yamamoto  
Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第27回

昭和39年12月1日(火) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 1 部

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1. 序曲「プロメテウスの創造物」作品43 | ベートーベン  |
| 2. 「ロザムンデ」より舞踏音楽と間奏曲  | シューベルト  |
| 3. 組曲「水上の音楽」より        | ヘンデル    |
|                       | 編曲 川崎 優 |

第 2 部

- |                           |           |
|---------------------------|-----------|
| 4. パーカッション・オン・パレード No. 15 | 瀬戸川 正     |
| 5. 序曲「曠野をゆく」              | 石井 敏      |
| 6. バンドのための楽章「若人の歌」        | 兼田 敏      |
| 7. 舞踊音楽「黄金時代」             | ショスタコーヴィチ |
|                           | 編曲 箕輪 日出男 |
| 8. 打楽器とバンドのための小協奏曲        | C. ウィリアムズ |

指揮 山本正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAMM

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. Overture, "The creatures of Prometheus" op. 43 | Beethoven |
|---|-----------|

2. Ballet and Interlude from ROSAMUNDE Schubert
3. Suite, from "Water music" Händel  
Arr. M. Kawasaki
4. Percussion on Parade No. 15 T. Setogawa
5. Overture, "Going over the Plain" K. Ishii
6. Movement for Band, "Song of Youth" B. Kaneda
7. Ballet music, "The golden age" D. Shostakovich  
Arr. H. Minowa
8. Concertino for Percussion and Band C. Williams

Conductor : Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第28回

昭和40年7月5日(月) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲目

第1部

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| 1. 行進曲「ふるさとに栄光あれ」 | 林 和 伸     |
| 2. 序 曲「魔弾の射手」     | ウ ェ ー バ ー |
| 3. フランス組曲         | ミ ヨ ー     |
| 4. スラブ舞曲より        | ドボルザーク    |

第2部

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| 5. パーカッション・オン・パレード No. 16 | 百 瀬 和 紀 |
|---------------------------|---------|

- |                    |         |
|--------------------|---------|
| 6. 吹奏楽とピアノのための小協奏曲 | 森 村 寛 治 |
| 7. ソワレ・ミュージカル      | ブ リ テ ン |

指揮 山 本 正 人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

第1部

- |                                     |                |
|-------------------------------------|----------------|
| 1. For the glory of my native place | K. Hayashi     |
| 2. Overture, Der Freischütz         | C. M. v. Weber |
| 3. Suite française                  | D. Milhaud     |
| 4. from Slavonic Dance op. 46       | A. Dvořák      |

第2部

- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| 5. Percussion on Parade No. 16    | K. Momose   |
| 6. Concertino for Brass and Piano | K. Morimura |
| 7. Soirées musicales              | B. Britten  |

Conductor : Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第29回

昭和40年12月1日(水) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 1 部

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1. 序曲「運命の力」       | G. ヴェルディ |
| 2. シンフォニック・プレリュード | A. リード   |
| 3. コンチェルト・グロッソ    | J. ワグナー  |
| 4. デイオニソス         | F. シュミット |

第 2 部

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| 5. パーカッション・オン・パレード No. 17 | 木村和彦    |
| 6. ルドヴィック                 | F. エロール |
| 7. ナイト・ファンタジー             | R. ワード  |
| 8. コンサート・スイート             | H. アッシュ |

指揮 山本正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

I

- |                                   |                 |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. Overture, The Force of Destiny | Giuseppe Verdi  |
| 2. A Symphonic Prelude            | Alfred Reed     |
| 3. Concerto Grosso                | Joseph Wagner   |
| 4. Dionysos                       | Florent Schmitt |

II

- |                                |                  |
|--------------------------------|------------------|
| 5. Percussion on Parade No. 17 | Kazuhiko Kimura  |
| 6. Ludovic                     | Ferdinand Hérold |
| 7. Night Fantasy               | Robert Ward      |
| 8. Concert Suite               | Frederic Ashe    |

Conductor : Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第30回

昭和41年11月28日(月)午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

指揮 渡辺 暁 雄 (第1部)

山本 正 人 (第2部)

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

曲 目

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1. 第八旋法のソナタ       | G. ガブリエリ    |
| 2. セレナーデ 作品7      | R. シュトラウス   |
| 3. 金管楽器のための組曲     | E. ザドール     |
| 4. アン・オリジナル・スイート  | G. ジェイコブ    |
| 5. コラールとアレレヤ      | H. ハンソン     |
| 6. イギリス舞曲         | M. アーノルド    |
| 7. トッカータ          | G. フレスコバルディ |
| 8. ストラトフォード組曲     | H. ケーブル     |
| 9. ドイツ・オーストリア行進曲集 |             |
| ケルンテン地方の歌の行進曲     | A. ザイフェルト   |
| 古い狩人の行進曲          | 編曲 G. ロッテラー |

バイエルンの分列行進曲  
女神ヘレナの行進曲

A. シェルツァー  
F. リーベルト

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1. Sonata Octavi Toni                          | G. Gabrieli      |
| 2. Serenade op. 7                              | R. Strauss       |
| 3. Suite for Brass Instruments                 | E. Zador         |
| 4. An Original Suite                           | G. Jacob         |
| 5. Chorale and Alleluia                        | H. Hanson        |
| 6. English Dances                              | M. Arnold        |
| 7. Toccata                                     | G. Frescobaldi   |
| 8. Stratford Suite                             | H. Cable         |
| 9. A Collection of German and Austrian Marches |                  |
| Kärntner Liedermarsch                          | A. Seifert       |
| Alter Jägermarsch                              | Arr. G. Lotterer |
| Bayrischer Defilier Marsch                     | A. Scherzer      |
| Helenenmarsch                                  | F. Lübbert       |

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 2. 第七旋法によるカンツォーネ 第2番                          | G. ガブリエリ<br>編曲 R. D. キング |
| 3. セレナーデ 第10番 変ロ長調 K. 361<br>(13管楽器のためのセレナーデ) | W. A. モーツァルト             |
| I ラールゴ アレグロ モルト                               | II アダージョ                 |
| III 主題と変奏                                     | IV ロンドーアレグロ モルト          |

第 2 部

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 4. 祝祭序曲 作品96  | D. ショスタコーヴィッチ<br>編曲 D. ハンスパーガー |
| 5. 小 組 曲      | C. ドビュッシー<br>編曲 F. ウィンターボトム    |
| 6. バンドのための交響曲 | R. E. ジ ャ ガ ー                  |
| 指揮            | ワルター・ダイレ (第1部)                 |
| " "           | 山 本 正 人 (第2部)                  |
| 演奏            | 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部               |

PROGRAM

1

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| 1. Sonata Pian' e Forte                    | G. Gabrieli<br>Arr. R. Miller  |
| 2. Canzon Septimi Toni No. 2               | G. Gabrieli<br>Arr. R. D. King |
| 3. Serenade for 13 Wind Instruments K. 361 | W. A. Mozart                   |
| I Largo, Allegro molto                     | II Adagio                      |
| III Theme and Variations                   | IV Rondo-Allegro molto         |

2

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 二つの合奏群による<br>「ピアノとフォルテのソナタ」 | G. ガブリエリ<br>編曲 R. ミラー |
|--------------------------------|-----------------------|

第31回

昭和42年6月8日(木) 午後6時30分

東京文化会館

主 催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 1 部

4. Festive Overture op. 96 D. Shostakovich  
 Arr. D. Hunsberger  
 5. Petite Suite C. Debussy  
 Arr. Winterbottom  
 6. Symphony for Band R. E. Jager

Conductor: Walter Deyle

" : Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第32回

昭和42年10月28日(土) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 一 部

1. クラリネット属による合奏

組 曲

選曲並びに監修 T. ダート

「ジェームス一世の宮廷管楽器音楽より」 改編 J. D. クーセン

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. アルマンド  | J. ハーディング |
| 2. アルマンド  | G. ファーナビー |
| 3. ファンタジア | J. バッサーノ  |
| 4. パバーヌ   | A. バッサーノ  |
| 5. アルマンド  | N. ガイ     |
| 6. アルマンド  | 作曲者不明     |

2. トートロジー

浦田 健次郎

第 二 部

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 3. バンドのためのアメリカ序曲 | J. W. ジェンキンス<br>編曲 山本 真 |
| 4. 太平洋の祭り        | R. ニクソン                 |
| 5. 交響詩「ローマの松」    | O. レスピギー<br>編曲 阪口 新     |

指揮 山本 正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

I

1. Suite from the Royal Wind Music of King James I  
 Selected and edited by T. Dart  
 Transcribed by J. D. Cousen
- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. Almande  | J. Harding |
| 2. Almande  | G. Farnaby |
| 3. Fantasia | J. Bassano |
| 4. Pavan    | A. Bassano |
| 5. Almande  | N. Guy     |
| 6. Almande  | Anon.      |
2. Tautology K. Urata

II

- |                                  |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 3. American Overture for Band    | J. W. Jenkins<br>Arr. M. Yamamoto |
| 4. Fiesta del Pacifico           | R. Nixon                          |
| 5. Symphonic poem "Pini di Roma" | O. Respighi<br>Arr. A. Sakaguchi  |

Conductor: Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第33回

昭和43年6月15日(土) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲目

第一部

- 1. 小交響曲 C. F. グノー
- 2. 典礼式ファンファーレ H. トマジ

第二部

- 3. プレリユードとフーガ ハ短調 J. S. バッハ  
編曲 E. W. ボルツ
- 4. シンフォニア F. H. アッシュェ
- 5. 交響的楽章 V. ネルイベル

指揮 ワルター・ダイレ (一部)

山本正人 (二部)

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

I

- 1. Petite Symphonie .....Charles F. Gounod
- 2. Fanfares Liturgiques .....Henri Tomasi

II

- 3. Prelude and Fugue in C minor.....J. S. Bach  
arr. Edward W. Volz

- 4. Sinfonia .....Frederic H. Ashe
- 5. Symphonic Movement .....Václav Nelhýbel

Conductor: Walter Deyle

: Masato Yamamoto

Play : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第34回

昭和43年10月24日(木) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲目

第一部

- 1. 吹奏楽のためのプレリユードとダンス P. クレストン
- 2. 交響曲 第4番 A. ホヴァネス
- 3. 第3組曲 R. ジャガー

第二部

- 4. 交響曲 第3番 V. ジャンニーニ
- 5. ユーフォニューム独奏 交響的小品 A. ギルマン
- 6. 行進曲「威風堂々」 E. エルガー

ユーフォニューム独奏 秋山鴻市

指揮 山本正人

演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

PROGRAM

I

- 1. Prelude and Dance for Symphonic Band …P. Creston
- 2. Symphony No. 4……………A. Hovhanness
- 3. Third Suite……………R. Jager

II

- 4. Symphony No. 3……………V. Giannini
- 5. Euphonium Solo, Morceau Symphonique…A. Guilmant
- 6. March “Pomp and Circumstance” ……E. Elgar

Euphonium Solo : Kōichi Aki  
 Conductor : Masato Yamamoto  
 Band : Tokyo University of Arts Symphonic Band

第35回

昭和44年7月1日(火) 午後6時30分

東京文化会館

主催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

- 1. スラブ行進曲 P. チャイコフスキー
- 2. マスカレード・フォア・バンド V. パーシケッティ
- 3. メタモルフォーゼス 浦田健次郎
- 4. アダージョとアレグロ V. ネルイベル

- 5. 祝典行進曲 團 伊 玖 磨
- 6. 牧神の午後への前奏曲 C. ドビュッシー  
編曲 篠原 猛
- 7. マリンバと小オーケストラのための“コティル” 山 内 忠
- 8. アメリカ古舞踏組曲 R. ベネット
- 9. 行進曲「征服者」 K. タイケ

マリンバ独奏 高橋美智子  
 指揮 山本正人  
 演奏 東京芸術大学音楽学部吹奏楽研究部

- 1. Slavonic march……………P. Tchaikovsky
- 2. Masquerade for Band……………V. Persichetti
- 3. Metamorphosis ……………K. Urata
- 4. Adagio and Allegro ……………V. Nelhýbel
- 5. Grand March “Celebration” ……………I. Dan
- 6. Prelude to the afternoon of a faun……………C. Debussy  
arr. T. Shinohara
- 7. Cotyle pour Marimba Sole et Petit Orchestre  
……………T. Yamanouchi
- 8. Suite of Old American Dances……………R. Bennett
- 9. March “The Conqueror” ……………K. Teike

Marimba Solo : Michiko Takahashi  
 Conductor : Masato Yamamoto  
 Band : Tokyo Geijutsu Daigaku Symphonic Band

第36回

昭和45年7月6日(月)18時30分開演

東京文化会館大ホール

主催 東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 一 部

1. 歌劇「運命の力」序曲……………G. ヴェルディ
2. 交響曲 変ロ長調……………P. ヒンデミット

第 二 部

3. 打楽器のための小協奏曲……………C. ウィリアムズ
4. 交響詩「はげ山の一夜」……………M. ムソルグスキー  
編曲 阪口 新
5. メキシコの祭り……………O. リード

指揮 飯 吉 靖 彦

演奏 東京芸術大学音楽学部管打研究部

PROGRAM

I

1. “La forza del destino” Overture ……………G. Verdi
2. Symphony in B flat ……………P. Hindemith

II

3. Concertino for Percussion and Band……………C. Williams
4. Symphonic poem “Une nuit sur le mont chauve”  
……………M. Mussorgsky  
arr. A. Sakaguchi

5. La fiesta mexicana ……………O. Reed

Conductor : Yasuhiko Iiyoshi

Ensemble : Tokyo Geijutsu Daigaku

Wind-instrument Music

Ensemble

第37回

昭和46年6月7日(月)午後6時30分

東京文化会館

主 催

東京芸術大学音楽学部

曲 目

第 一 部

1. 祝典序曲 D. ショスタコーヴィッチ  
編曲 D. ハンスパーガー
2. 交響曲 第三番 V. ジアンニーニ

第 二 部

3. バンドのための第一交響曲 F. エリクソン
4. スペイン綺想曲 N. リムスキーコルサコフ  
編曲 M. L. レイク
5. 歌劇「イーゴリ公」より “ダッタン人の踊り”

A. ボロディン  
編曲 阪口 新

指揮 飯 吉 靖 彦

演奏 東京芸術大学音楽学部管打研究部

PROGRAM

- 1  
 1. Festive Overture op. 96 D. Shostakovich  
 arr. Donald Hunsberger  
 2. Symphony No. 3 Vittorio Giannini  
 2  
 3. First Symphony for Band Frank Erickson  
 4. Capriccio Espagnole N. Rimsky-Korsakov  
 arr. M. L. Lake  
 5. Polovetsian Dances from "Prince Igor"  
 A. Borodin  
 arr. S. Sakaguchi

Conductor Yasuhiko Iiyoshi  
 Ensemble Tokyo Geijutsu Daigaku Wind-instrument  
 Music Ensemble

第38回

47.12.7 (木) 18時30分  
 東京文化会館大ホール  
 主催 東京芸術大学

曲 目

第 1 部

1. 7本のクラリノーとティンパニーのためのコンチェルト  
 J. E. アルテンブルグ  
 2. フェアリー キーン第4幕よりのシンフォニー H. パーセル

3. 管楽器のためのソナティネ (第1ソナティネ)

R. シュトラウス

第 2 部

1. 祝典の為の音楽 G. ジェイコブ  
 2. リンカンシャーの花束 P. A. グレンジャー  
 3. 組曲「三角帽子」 M. de ファリャ  
 阪口 新 編曲

指揮 佐藤功太郎

東京芸術大学音楽学部管打研究部

PROGRAMME

1.  
 1. Concerto for Clarini and Timpani J. E. Altenburg  
 2. Symphony from The Fairy Queen, Act IV H. Purcell  
 3. Sonatine for Wind Ensemble R. Strauss

2.

1. Music for a Festival G. Jacob  
 2. Lincolnshire Posy P. A. Grainger  
 3. Ballet suite "The three-cornered hat" M. de Falla  
 arr. Arata Sakaguchi

Conductor KŌTARŌ SATŌ  
 TOKYO GEIJUTSU DAIGAKU  
 WIND ENSEMBLE

第39回

48.11.13 (火) 19:00

虎の門ホール (国立教育会館)

主催 東京芸術大学

Conductor 佐藤功太郎

東京芸術大学音楽学部 管打研究部

PROGRAMME

<b>Mendelssohn</b>	メンデルスゾーン
Overture for Band	吹奏楽のための序曲
<b>Masaru Kawasaki</b>	川崎 優
Fantasy for Symphonic Band	民謡風の主題による吹奏楽のための幻想曲
<b>Fauchet</b>	フォーシェ
Symphony in B Flat	交響曲 変ロ長調

—Intermission—

<b>Verdi</b>	ヴェルディ
Overture“La forza del destino”	序曲「運命の力」
<b>Dvořák</b>	ドボルザーク
(arr. Arata Sakaguchi)	(阪口 新 編曲)
Slavonic Dances	スラブ舞曲 I, II, III,
<b>Tchaikovsky</b>	チャイコフスキー
Overture solennelle “1812”, op. 49	大序曲「1812年」作品49

第40回

49.11.13 (水) 18:30

郵便貯金ホール

主催 東京芸術大学

曲 目

第 1 部

1. 交響曲 第5番「運命」 ハ短調 作品67 ベートーベン  
ベッセラー編曲

第 2 部

1. 歌 劇 「タンホイザー」より 第2幕 大行進曲  
第3幕 巡礼の合唱  
ワーグナー  
ベッセラー編曲

2. 神聖祭典劇 「パルシファル」より 聖金曜日の不思議  
ワーグナー  
ベッセラー編曲

3. 楽 劇 「ニュールンベルクのマイスタージンガー」より前奏曲  
ワーグナー  
ベッセラー編曲

指揮 ニコラ・ルッチ

東京芸術大学音楽学部管打研究部

PROGRAMME

1

1. Symphonie Nr. 5 c-moll Op. 67 L. v. Beethoven  
A. Vessella

2

1. aus Opera “Tannhäuser” Einzug der Gäste R. Wagner  
Pilgerchor A. Vessella

2. aus Opera “Parsifal” Karlfreitagszauber R. Wagner  
A. Vessella

3. Vorspiel zu “Die Meistersinger von Nürnberg”  
R. Wagner  
A. Vessella

Conductor Nicola Rucci  
TOKYO GEIJUTSU DAIGAKU  
GRANDE BANDA



ニコラ・ルッチ

第41回

昭和50年10月22日(水) 午後7時

東京文化会館

主催 東京芸術大学音楽学部

曲 目

1. *Fanfare for the Common Man* .....A. Copland  
市民のためのファンファーレ.....A. コーランド
2. *Theme and Variations op. 43 a* .....A. Schoenberg  
主題と変奏.....A. シェーンベルク
3. *Prelude and Dance op. 76* .....Paul Creston  
プレリュードとダンス.....P. クレストン
4. *Chester for Band*.....W. Schuman  
チェスター序曲.....W. シューマン
5. *Symphonies of wind instruments* .....I. Stravinsky

- 管楽器のシンフォニー.....I. ストラヴィンスキー
6. *Tunbridge Fair, Intermezzo for Symphonic Band*  
.....W. Piston  
ターンブリッジ・フェア.....W. ピストン
  7. *Commando March*.....S. Barber  
コマンドマーチ.....S. バーバー

指揮 ハンス・シュヴィーガー  
Hans Schwieger

演奏 東京芸術大学管・打楽器合奏研究部  
Tokyo National University of Fine Arts and  
Music Wind Ensemble

第42回

1976.11.24(水) 19:00 文京公会堂

主催 東京芸術大学音楽学部

指揮 エルヴィン・ボルン  
Erwin Born

演奏 東京芸術大学音楽学部管打合奏研究部

PROGRAM  
プログラム

1. *Fantasia for Band* .....V. Giannini  
バンドのためのファンタジア V. ジャンニーニ
2. *Divertimento for Band*.....B. Kaneda  
バンドのためのディヴェルティメント 兼田 敏

3. Poem for Symphonic Band .....M. Kawasaki  
シンフォニックバンドのための詩曲 川崎 優
4. Sinfonietta.....I. Dahl  
シンフォニエッタ I. ダール

— 休 憩 —

5. Concerto for Percussion .....K. Husa  
打楽器のための協奏曲 K. フーサ
6. English Dances for Band .....M. Arnold  
バンドのためのイギリス舞曲 M. アーノルド
7. Colonial Song .....P. A. Grainger  
コロニアル・ソング P. A. グレンジャー
8. Ballet Suite “Mademoiselle Angot”  
.....C. Lecocq arr. by R. Mohaupt  
バレエ組曲 “アンゴール夫人” C. ルコック R. モハウプト編曲

第43回

昭和52年11月14日（月）午後7時  
国立教育会館 虎の門ホール  
主催 東京芸術大学音楽学部

曲 目

1. 祝典序曲 作品96 ショスタコヴィッチ  
Festive Overture op. 96 ハンスパーガー 編曲  
arr. D. Shostakovich  
arr. D. Hunsberger

2. 交響曲 変ロ長調 ヒンデミット  
Symphony in B flat P. Hindemith
3. 歌劇「売られた花嫁」より スメタナ  
三つのダンス 阪口 新 編曲  
Three Dances.  
from opera 「The Bartered Bride」  
B. Smetana  
arr. A. Sakaguchi
4. 道化師の朝の歌 ラヴェル  
Alborada del gracioso オドム 編曲  
M. Ravel  
arr. L. Odum
5. 組曲「寄港地」より イベール  
2. チュニス・ネフタ デュボン 編曲  
3. ヴァレンシア  
Escale J. Ibert  
2. Tunis・Nefta arr. P. Dupont  
3. Valencia
6. 行進曲 英雄 作品34 サン・サーンス  
Marche Héroïque op. 34 ウィンターボトム編曲  
Saint-Saëns  
arr. F. Winterbottom

指揮 遠藤 雅古  
Conductor Masahisa Endō  
演奏 東京芸術大学音楽学部  
管打合奏研究部  
Tokyo Geijutsu Daigaku  
Wind Ensemble

第44回

昭和53年11月10日(金)午後7時  
国立教育会館 虎の門ホール  
主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- コラールとフーガ ト短調..... J. S. バッハ  
A. ウェイス編曲  
Chorale and Fugue in g-minor J. S. Bach  
arr. A. Weiss
- われキリストの復活を待ちうける..... O. メシアン  
Et exspecto resurrectionem mortuorum O. Messiaen
- 牧神の午後への前奏曲..... C. ドビュッシー  
大石 清編曲  
Prélude à l'après-midi d'un faune C. Debussy  
arr. K. Ohishi
- 交響的瞬間..... 兼田 敏  
Symphonic Moment for Symphonic Band S. Kaneda
- ラプソディ イン ブルー..... G. ガーシュウィン  
F. グロフエ編曲  
Rhapsody in Blue G. Gershwin  
arr. F. Grofé

ピアノ 北 島 公 彦  
Piano Kimihiko Kitajima  
指揮 有 賀 誠 門  
Conductor Makoto Aruga

演奏 東京芸術大学音楽学部 管打合奏研究部  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble



有賀誠門

第45回

昭和54年11月5日(月)午後7時  
国立教育会館 虎の門ホール  
主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- 異教徒イベリア人の讃歌と舞曲..... C. スリナッチ  
Paeans and Dance of Heathen Iberia C. Surinach
- ピッツバーグ 序 曲..... K. ペンデレッキ  
Pittsburgh Overture K. Penderecki
- 三つのダンスエピソード..... L. バーンスタイン  
Three Dance Episodes L. Bernstein
- パライゾ ..... 鶴 田 睦 夫  
亡き王女のためのパヴァーヌ..... M. ラヴェル  
Pavan for a dead Princess M. H. ヒンズレー編曲  
M. Ravel  
Transcribed by M. H. Hindsley
- エル サロン メヒコ..... A. コープランド  
El Salón México M. H. ヒンズレー編曲  
A. Copland

Transcribed by M. H. Hindsley

指揮 有賀 誠 門  
Conductor Makoto Aruga

演奏 東京芸術大学音楽学部 管打合奏研究部  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble

第46回

昭和55年12月6日(土) 午後6時30分

東京文化会館大ホール

主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

王のための行進曲 <i>Königs Marsch für Blasorchester</i>	R. シュトラウス <i>Richard Strauss</i>
主題と変奏 <i>Theme and Variation</i>	A. シェーンベルク <i>Arnold Schönberg</i>
プリズム <i>Prisms</i>	M. グールド <i>Morton Gould</i>
ラプソディ <i>Rhapsody for Concert Band and Jazz Ensemble</i>	P. ウィリアムズ <i>Pat Williams</i>
打楽器協奏曲 <i>Concerto for Percussion and Wind Orchestra</i>	黛 敏郎 <i>Toshiro Mayuzumi</i>
この地球を神と崇める <i>Apotheosis of This Earth</i>	K. フーサ <i>Karel Husa</i>

指揮 有賀 誠 門  
Conductor Makoto Aruga

演奏 東京芸術大学音楽学部 管打合奏研究部  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble

第47回

国立教育会館虎ノ門ホール

1981年11月13日(金)

主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

フォーメーション <i>Formations</i>	モートン グールド <i>Morton Gould</i>
“ウェストサイド物語”より シンフォニックダンス レナード バーンスタイン 編曲 中村 均	レナード バーンスタイン <i>Leonard Bernstein</i> arr. Hitoshi Nakamura
<i>Symphonic Dance from “West Side Story”</i>	
そして、どこにも山のすがたはない <i>And the mountains rising nowhere</i>	ヨセフ シュヴァントナー <i>Joseph Schwantner</i>
カルミナ ブラーナ <i>Carmina Brana</i>	カール オルフ 編曲 J・クランス <i>Carl Orff</i> arr. John Krance
	指揮 有賀 誠 門 Conductor Makoto Aruga

演奏 東京芸術大学音楽学部 管・打専攻学生  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble

第48回 (第5回台東区民コンサート)

1982年12月6日(月)

台東区立浅草公会堂

6:30 開演

主催 東京芸術大学音楽学部

台東区教育委員会

ごあいさつ

本日は、第5回区民コンサートにおいでいただきましてありがとうございます。

今回は、本年第2回目の区民コンサートにあたりますが、特に従来とはいささか趣きをかえて、吹奏楽を高らかに演じ、明るく楽しい一夜にしたいと考えました。

東京芸術大学にご相談いたしましたところ快くご承諾をいただきまして、ここ浅草公会堂へ同大学の有賀誠門先生指揮による「芸大定期吹奏楽」公演をおまねきすることができました。

何卒、今宵ひとときごゆるりと名曲をご鑑賞いただき、ご家庭における団らんの話題の一つとしてご利用いただければ、主催者といたしまして幸甚に存じます。

おわりに、ご協力いただきました東京芸術大学当局に対し、心からお礼申しあげます。

昭和57年12月6日

台東区教育委員会

プログラム

- コマンド マーチ……………サミュエル バーバー  
*Commando March*……………*Samuel Barber*
- 交響曲 第4番 作品165……………アラン ホヴァネス  
*Symphony No. 4 op. 165*……………*Alan Hovhaness*
- プラハの春 1968……………カレル フーサ  
*Music for Prague 1968*……………*Karel Husa*
- ホタ……………カルロス スリナッチ  
*Jota*……………*Carlos Surinach*
- カノン……………ヨハン パッヘルベル  
編曲 J. ポールソン  
*Canon*……………*Johann Pachelbel*  
arr. by J. Paulson
- こどものマーチ……………パーシー A. グレインジャー  
*Children's March*……………*Percy A. Grainger*  
“Over the Hills and Far Away”
- ラプソディ イン ブルー……………ジョージ ガーシュウィン  
編曲 F. グローフェ  
*Rhapsody in Blue*……………*George Garshwin*  
arr. by F. Grofé

指揮 有賀誠門  
Conductor Makoto Aruga

ピアノ独奏 中島 境子  
Piano Solo Kyoko Nakajima

演奏 東京芸術大学音楽学部 管・打専攻学生  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble

第49回

1983年11月21日(月)

簡易保険ホール

6:30 開演

主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- イギリス民謡組曲 ..... R. ヴォーン・ウィリアムズ  
*English Folk Song Suite* ..... R. Vaughan Williams  
 リンカーンシャーの花束 ..... P. A. グレインジャー  
*Lincolnshire Posy* ..... P. A. Grainger  
 暁と舞 ..... 池上 敏  
 “Mei” ♪ “Mai” ..... S. Ikegami  
 パッサカリアとフーガ ハ短調 ..... J. S. バッハ  
*Passacaglia and Fugue c moll.* ..... J. S. Bach  
 ニュー ファウンドランド ラプソディ ..... H. ケイブル  
*New Foundland Rhapsody* ..... H. Cable  
 エル サロン メヒコ ..... A. コープランド  
*El Salón México* ..... A. Copland  
 交響的舞曲第3番 “祭り” ..... C. ウィリアムズ  
*Symphonic Dance No. 3 “Fiesta”* ..... C. Williams

指揮: ヴィクター フェルドブリル  
Victor Feldbrill

演奏 東京芸術大学音楽学部 管・打楽器専攻学生  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble

第50回

1984年11月26日(月)

簡易保険ホール

6:30 開演

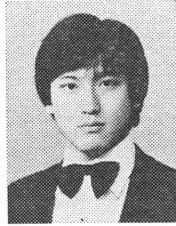
主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- フェスティバル ヴァリエーションズ ..... C. T. スミス  
*Festival Variations* ..... C. T. Smith  
 管楽器のシンフォニー ..... I. ストラヴィンスキー  
*Symphonies of wind instruments* ..... I. Stravinsky  
 ロシアのクリスマス音楽 ..... A. リード  
*Russian Christmas Music* ..... A. Reed  
 プレリユード, コラールとフーガ ..... J. S. バッハ  
 編曲 M. H. ハイન્ズレー  
*Prelude, Choral & Fugue*  
 ..... J. S. Bach arr. M. H. Hindsley  
 シンフォニックダンス ..... L. バーンスタイン  
 「ウェストサイド物語」より 編曲 佐藤 宗男  
*Symphonic Dance* ..... L. Bernstein  
 from “West Side Story” arr. M. Satoh

指揮: 大野 和 士  
conductor Kazushi Ohno

演奏 東京芸術大学音楽学部 管・打楽器専攻学生  
Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble



大野和士

第51回

1985年11月26日 (火)

簡易保険ホール

6:30 開演

主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- 四群によるファンファーレ ..... A. リード  
*A Quadriphonic Fanfare* ..... A. Reed
- 幻想曲とフーガ ト短調 BWV 542 ..... J. S. バッハ  
ボイド編曲  
*Fantasia & Fugue g minor BWV 542* ..... J. S. Bach  
Arr. J. Boyd
- 第一交響曲 ..... S. バーバー  
デューカー編曲  
*First Symphony* ..... S. Barber  
Arr. G. M. Duker
- 情景 ..... V. レイノルズ  
*Scenes* ..... V. Reynolds

ローマの松 ..... O. レスピーギ  
阪口新編曲

*The Pines of Rome* ..... O. Respighi  
Arr. A. Sakaguchi

指揮: フレデリック フェネル  
conductor Frederick Fennell

演奏 東京芸術大学音楽学部 管・打楽器専攻学生  
*Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble*

\* [Greeting]

Frederick Fennell



フレデリック・フェネル

第52回

1986年11月25日 (火)

五反田簡易保険ホール

開場 6:00 p. m. 開演 6:30 p. m.

主催 東京芸術大学音楽学部

プログラム

- 1. ファンファーレ, パラードとジュビリー ..... C. スミス  
*Fanfare, Ballad and Jubilee* ..... C. Smith

2. ホロコーストからの組曲……………M. グールド  
*Suite from “Holocaust”* ……………M. Gould
3. クラウン イムペリアル……………W. ウォルトン  
*Crown Imperial* ……………W. Walton
4. 組曲“展覧会の絵”……………M. P. ムソルグスキー  
*Suite “Pictures at an Exhibition”*…………M. Moussorgsky  
arr. by M. Hindsley

指揮 小田野 宏之

演奏 東京芸術大学音楽学部管打楽器専攻学生  
*Tokyo Geijutsu Daigaku Wind Ensemble*



小田野宏之

### 第3節 オペラ定期公演

すでに『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇』第1巻(541~552頁)で触れたように、本学におけるオペラ公演は、明治36年(1903)の「オフォイス」以来途絶えていた。しかしその後も、明治37年には軍歌を基調とした「露営の夢」が北村季晴により作詞作曲され、音楽劇として上演された。また翌38年には、能に取材した「羽衣」が小松耕輔により作詞作曲されて舞台にかけられるなど、新しい音楽劇を創作し、発表する試みは続

いている。

大正年間には露西亜歌劇、カーピ・イタリア歌劇団が来日してわが国の楽界をおおいに刺激した。昭和になるとオペラ運動が本格化する。放送歌劇、日本楽劇協会の活動に続き、昭和9年には藤原歌劇団が誕生した。戦後の昭和20年には長門美保歌劇団、24年には関西歌劇団が相次いで結成されている。

東京音楽学校では、昭和12年10月、学友会の第100回演奏会で、教官と生徒が力を合わせて、橋本國彦指揮のもとで「魔弾の射手」を演奏会形式により上演した。まずまずの成功だったようである。時代は昭和12年、出演予定になっていた教師の1人が召集され、生徒たちの見送りを受けて出征するという一幕もあった。このような時勢に若い情熱を精一杯注ぎ、合宿までして練習を重ね、本番にこぎつけた生徒たちの熱狂と充実感は大抵のものではなかったようである。

音楽学部発足後の昭和27年、二期会が結成された。東京音楽学校出身者が中心となった二期会の結成は、本学に少なからぬ影響を及ぼした。二期会同人で当時音楽学部助教授でもあった柴田陸陸(元本学名誉教授、昭和63年逝去)、畑中良輔(本学名誉教授)、中山悌一(元本学教授)らは、プロの舞台に通用するような歌い手を大学で育てたいと考え、本学におけるオペラ教育の実現に情熱を注いだ。

一方学生たちも、オペラの授業が正規に開設されるのを待ちきれずに自主的な練習を開始した。大学からは練習場所も何の設備も提供されなかったが、放課後の数時間、学生たちは空いている教室で、大道具小道具の代わりに床にチョークで階段や椅子を描くなどして練習を重ね、学内の芸術祭で成果を発表した。当時はオペラのカリキュラムが確立していなかったが、学生たちの自主的な練習は許されていた。

大学側も、声楽科の学生がオペラを学ぶことに異論はなかったものの、いざオペラを公の舞台で発表する段になると、経済的な問題、オーケストラや各部門のスタッフの問題など数々の困難に突きあたった。そればかりか、当時は学内の教官はもとより、声楽科内部でもオペラ公演には反対す